

MAI HIDAKA 2002~2003



椎名桂子

2002年：日高舞（中学2年）

全日本ジュニア直前！

2002年全日本ジュニア、勝手に大予想！

★堀内美由優、連覇の可能性は？

A:今年いちばん気になるのは、堀内美由優ちゃんの連覇になるか？ ということだと思うんだけど。みんなはどう予測しているの？

B:うーん、私は難しいかな、と思っているんだけど。全中のビデオ見たけど、調子悪そうだったものね。なんとなく元気ないし、このところ。

C:私は、ミスがなければ堀内さんで決まりだと思ってはいるけど、全中のあと試合で見てないので、どの程度復調しているかがわからないのがちょっと不安材料かな。新体操祭で踊っているのしか見てないものね。

D:いや、姫路の演技会でのビデオで見たけど、このときもまだ元気はなかったよ。大丈夫なのかなあ、ちょっと心配だね。

A:じゃあ、もしも優勝が堀内さんじゃなかった場合は、だれが来ると思う？

E:そりゃあ、臼間野さんでしょう！ 全中でも優勝しているし、私の愛がある(笑)。

C:はははっ。気持ちわかるけど、妥当にいけば、山本さんじゃない？ 山本、堀内、臼間野、東川、日高とか、そんな感じに落ち着きそうよね。でも、ちょっとしたミスで順位入れ替わりそうだから、例年になく、ドキドキ感のある大会だわね。

E:うー、まあ、そんな感じでしょうね。私はその先も予想してみたんだけど、青木、後藤、古城…なんてどうでしょうね？

★私的思い入れも込めて「私のみどころ」

A:まあ、上位の予想はそんな感じになるのかもしれないけど、なにしろ54人も出る大会なんだから、「私はこの選手！」「ぜひ注目してほしい選手！」とかいないのかな。

C:私はどの選手ってことじゃないけど、A班が毎年けっこう楽しみなんだ。予選での成績は下位のグループなんだけど、それだけに学年が下の子も多いから、来年以降の有望選手や今までは知

らなかったけど、「いいじゃないの～」って選手がけっこう見つけれられるのよ。だから、私は今年は午後から仕事で全部は見られないけど、A班見たさで行くわよ～。

B: まー！ 青田買ってやつねえ(笑)。でもたしかにそういう楽しみ方もあるわよね。小学生で出てくる子なんて、この先3年くらい成長が見られるかと思うと、先が楽しみよね。

E: 孫を見るばあちゃんみたいなノリですねえ(笑)。

F: ちょっと地元ひいき入ってますけど、緒方ひかりさんにぜひ注目してください～。とっても雰囲気のある演技をする選手なんです。演技もすてき、レオタードもすてき。今年はクラブ選手権ではフープで場外があってあまり点数が伸びなかったようなんだけど、ほんとにおすすめ選手なんですよ～。

B: 私は、村井桃子ちゃんがイチオシよ。関東ジュニアで見てすごよかったの。技もすごくできる子だし、筋力もすごいんだけど、それでいてどことなく「ふわっ」とした感じのある昔ながらの新体操らしい演技をする子だと思ったのよね。

A: 「昔ながらの新体操らしい演技」といえば、やはり東川歩未ちゃんもはずせないでしょう。今どき珍しいほどシンプルなレオタードで、技も入れつつ、「踊ろう」としているし「表現しよう」という気持ちが伝わってくる演技だよ。

F: 緒方さんもそうなの。「昔ながらの新体操」って感じがあるのよ。そこがなんとも人をひきつけるから、九州ではすごく人気のある選手ですよ。

E: 村井さんは私も大好きです。あの脚の強さはすごい。かなり上位に入ってきてもおかしくない選手だと思うなあ。

★激戦の証？「どうして出てないの？」な選手達

G: うちの東海地区なんだけど、今年の東海地区はすごい激戦だったの。なんと、去年は全ジュニに出ていた西部智美ちゃんも出られなかったくらいだし。

A: ええ～っ！ 西部さん、私、大好きなのに。残念だわ～。

E: 私も西部さん、好きだよ～。え～、見られないの、さびしい！

G: 東海地区からは、チェルシーの青木さん、NPOぎふの浅野さん、みなみ新体操の佐藤さん、アンジュRGの佐津川さん、チェルシーの青山さんの5人だと思いますよ。

A: えっ？ アンジュからは佐津川さんなの？ 西村さんじゃなくて？

G: 東海での成績が佐津川さんのほうが上だったんですよ。

A: ま～、西村さんも見られないなんて残念。でも、たしかにアンジュは新体操祭で見ても目立って上手な子が何人かいたものね。佐津川さんはきっとあの中の1人なのね。楽しみだわ。

F: チェルシーのレオタードはまた注目を集めそうね(笑)。

B: あ～、ほんとにあそこは奇抜なのをいつも着てるわよね。

F: 今年は松永RGから個人で4人も出ているので、松永の応援はきっと熱いですよ～。ビデオ撮る人はあまり近くじゃないほうがいいのかも(笑)。

C: 松永は今年も勢いがあるのねえ。

F: 去年の掛野さんほどのスターはいないけど、「みんな揃ってすごい」というのが今年の松永です。

E: 九州といえば、全中で大活躍だった長崎の村上さんも楽しみですね。

F: あ～、村上さんは全ジュニは出ないんですよ。かささぎ杯であまり上位に入れなかったの。

E: え～、村上さんも出ないの。がっかり。

B: 全中とクラブ選手権で、大注目だった香川の柿崎さんも、全ジュニでどこまで上がってくるかしらね。

A: あの～、それが柿崎さんも出てないみたいなんですよ。

B: え～、なんでえ？ なんだか今回、楽しみにしている選手がずい分もれてない？

A: どのブロックも激戦だったってことでしょうね。全中では上位に来てた子でさえ、ミスすればブロックで勝ち抜くことができなかつたくらい。

E: そうですよ。だって、なんたって、ウーマンズの子が個人に出てないんですもん。私は、浅沼圭ちゃんの演技が大好きなのに～(号泣)。

C: 佐藤由佳ちゃんも、全中では健闘していたのにね。関東ジュニアが波乱ぶくみだったから、こんなこともあるのよね。

A: まあ、スポーツなんだからそういう番狂わせもあったほうが健全とも思うけれど、選手やコーチは気が抜けないよね。「まず大丈夫だろう」とることがほんとにない大会になりそうだから。思いがけない選手がするっと上に来る可能性もあるし。

★どこまでいくのか？ 千葉勢の快進撃！

巻き返しをはかる東京勢との団体での激突は？

B: やはり台風の目は千葉勢かしらね。強すぎるから、今の千葉は。

D: イオンの2人は確実だとして、飛行船から個人に4人も出てるでしょ。しかもみんな上位グループだからすごい。

B: しかも、日高舞ちゃんもいる。イオンカップでも20点台出ていたくらいだから、のったときはかなりの点数が出そう。

A: ただ、飛行船は4人とも団体のメンバーを兼ねているから、練習はかなりきつかったんじゃないかな。団体ももちろん優勝狙っているでしょうから。

E: 関東ジュニアでも素晴らしい演技だったけど、先生は「まだまだ未完成」と言われていたようだから、もっともっと完成度上げてきてるんじゃないですかね、飛行船の団体。

C: あ～、見るのが楽しみだねえ。

B: でも団体なら、ウーマンズの巻き返しも期待できると思うわよ。個人にだれも出れなかった悔しさもあるだろうし、個人に出る子がいない分、団体に集中して練習できてるはず。関東ジュニアではミスが出てしまったけど、今回はそのままではおわらないはず。

A: たしかに。ウーマンズの団体は楽しみ。リボンの団体のときも四大陸代表決定戦でミスが出て、

安達に負けてから、その年の夏～秋はものすごい気迫の演技で優勝していたものね、ウーマンズの団体は。追い込まれたときのウーマンズの底力は侮れないわよ。

C:あと、ミラクルねもとも注目だわ。ねもとの団体は東京ジュニアでも3位だったのに、関東ジュニアでも3位なのよね(笑)。普通そんなことあり得ないのに。その執念にはおそれいるわ。今回もまたミラクルを起こしてくれるんじゃないかしら。今年のねもとの団体は、入りの技がとてもインパクトがあるのよね。東京ジュニアで初めて見たときは会場がざわめいたもの。今回もパッチリ決まるといいわね。

B:関東から出る団体は、安達も日高さんが、町田も東川さんが個人も兼ねているでしょう。その点、ウーマンズとねもとは団体に賭けてるでしょうから、ちょっと見ものね。あと、イオンもだわ。イオンの団体はまだ発展途上だから、関東ジュニアからの2カ月で大化けしてる可能性はあるわよね。楽しみだわ。

E:団体は地方の情報が入って来てないけど、去年見た感じだと、松永や山形ジュニアもかなりすごかったし、去年のチームに中3があまりいなかったようだから、ますますパワーアップしているんじゃないかな。ワクワク。

A:出てくるかどうかわからないけど、NPOぎふあたりもすごそうじゃない？

C:うんうん。すごそう。長野カップでの徒手団体はインパクトあったものね。

B:いずれにしてもフープの団体は、フープの使い方が多彩で見ていて面白い演技が多いから楽しみだよ。

A:なにはともあれ、全日本ジュニア、楽しみだね～。

F:私は見に行けませんけど、みなさん、がんばって見てきてください！ 週末に備えて家事や仕事はきれいにかたづけしておいてね～。

A:うっ。それを言われるとつらいわ(泣)。

C:でもなにがあっても見に行くわよね、きっと(笑)。

●「RG LOVERS」2002/10/18

念願だった、全日本ジュニア予想を書いてみました。観戦される方の参考になれば幸いです。このところ、全日本ジュニア観戦のために、家にこもって仕事をしているのですが(進まないけど…)、せめてもとバックに昔の新体操のビデオを流しています(だから進まないんだけど…)。いやいや、これがなかなかおもしろいですよ。さすがに80年代まで遡ると「え～、これでいいの～？」と思うような演技もありますが、90年代に入ったばかりのころ(ティモシェンコ、スカルディーナ、ペトロバあたりのころです)は文句なしにおもしろいですね。身体能力的にも今の選手達に見劣りしないし、それでいて今の新体操とは表現力が違う。91年のワコールカップのブルガリアの団体は「生と死」をテーマにしたリボンの演技でしたが、これはもう鳥肌ものでした。こんなの今では絶対にある得ない！ ああ、こうやってますますオタクの道へまっしぐらなんだわ、私。そして、明日は早朝から代々木に向かいますー！ ほんとにバカよー(苦笑)。

●「RG LOVERS」2002/10/19

ああ、もう今日になってしまいました、全日本ジュニア。

早く寝ないと…。

無責任にも「大予想」なんて記事を書いてしまい、万が一、出場される選手やその指導者の方にプレッシャーをかけてしまったり、不愉快な思いをさせてしまったりしていたら申し訳ありません。

基本的には、どの選手のことも、どのチームのことも、応援していますので、どうかお目こぼしく下さいませ！

「予想」となればいろんなこと言ってしまうのですが、「全日本」まで駒を進めてきたということは、すでにスゴイことなんですよ。それはじゅうじゅう分かっているので、いざ会場に行けば、どの演技にも「ため息」と「感動」なんですがね。

今ごろ、選手のみなさん、コーチのみなさんはよく眠れているでしょうか。みなさんがいいコンディションで明日を迎えられるように祈っていますー！ 明日（あ、もう今日だ！）は朝早く並ぶ覚悟なので、熱いコーヒー入りのポットを持って行くつもりです。雨が降らないことを祈ります。

●「RG LOVERS」 2002/10/20

さすがに昨日は更新できずー！（泣）

だって、朝6時に家を出て、1日観戦だったんです～。

許してください～。そして、今日もほぼ同じスケジュール。

夫はよく耐えています（感謝！）。

では、明日じゃなくてももう今日だ！

ワクワク?ドキドキの全日本ジュニア2日目に行ってきまーす！

●「RG LOVERS」 2002/10/21

またまた更新ができませんでした（泣）。

だって、昨日も朝6時に出かけて、帰ってきたのは9時。

1日中、座って観戦してお尻の皮が薄くなったような気がしています…。しかし、昨日は、仲間達とわいわい観戦することができて、とっても楽しかったし、エキサイトしました。

試合は、1日目に比べてミスが多く、「え～」「きゃあ～」という場面が多々ありましたが、見所はいっぱい！

すでにご存知のように、個人は、白間野香里さんが優勝、団体は安達新体操クラブが優勝しました。

どちらも文句なしの優勝だったと思います。

思うことはいろいろありますが、語りきれないので（笑）、今日中をメドに観戦記アップしたいと思います。お楽しみに。

は～、2日間、新体操だけを見ていられてとてもシアワセでした。
今日からは仕事に戻ってがんばらないとね！

●「RG LOVERS」 2002/10/22

昨日は、観戦記を書くつもりだったのに、1日目の時点で気合いが入りすぎ(苦笑)、長くなるわ、さすがに書いて疲れたわ、で1日目までで力きました。つづきを楽しみにしてくださっているみなさん、今日こそは…と思っていますので、今しばらくお待ちを！

昨日はやけにアクセス数が多く、「みんな観戦記に期待して見に来てくれているのかな？」なんて喜んでいましたが、どうも中には掲示板の不穏な動きを観察しに来ていた方もいたようで…。

おかげさまで(?)昨日は久々にスポーツ部門のアクセス数トップに返り咲いてしまいましたよ～。掲示板については、最初にいろんな事態を想定して、ルールを作っておかなかった私の甘さゆえに、ちょっとゴタゴタしてしまい、申し訳なかったです。トップページに「お約束」を載せましたので、今後はこの線にそって、ぜひご協力ください！

さて、観戦記、書こうかなあ。

2002年 全日本ジュニア新体操選手権①

(10月19日/代々木第一体育館)

行ってきました！ 全日本ジュニア！ 今年も、2日間朝から夕方までびっしりの過密スケジュールですわりっぱなしだったため、しまいには「エコノミークラス症候群」の心配をするほどでした(苦笑)。

しかし、そんな疲れも吹き飛ばすほどの熱戦。エキサイティングな展開の試合に手に汗にぎり、心臓バクバクで充実の2日間を過ごしました。では、お待ちかねのレポートです。

まず1日目。

ブロック予選での成績が下位から順にA～D班4つに班分けしてあり、班ごとにフープ、ボールの2種目を行なった。「青田買い」にはうってつけ(笑)と称されるA班だが、今年はずいぶんその通り。来年の四大陸ジュニア選手権をにらんでの協会推薦枠で出場した選手達がこのA班に出場していたのだ。ブロック大会の成績から判断するに、「おそらくこの子は推薦枠出場」と思われる選手達は、みなすばらしいスタイルで、次世代の期待の星となり得るような選手達ばかりで、A班の練習フロアは、「ここはほんとに日本？ ロシア？」と見まごうような状態だった。

そして、演技のほうでも、推薦枠の坪井保菜美(ジャスコ岐阜)が、1種目目のフープから高い身体能力をフルに生かした演技で大きなミスもなく、18.350の高得点をたたきだす。坪井は、とにかく脚が長く、細い。そのうえ柔軟性、跳躍力にも恵まれ、そりジャンプでは、頭とお尻がついた形でしか

も3連続もやってのけるので、驚くばかり。いかんせん脚が細いためにひざや内股気味なところなどの脚の欠点が目立つのが残念。昨年末のチャイルド選手権で3位になったあたりから、貫禄すら出てきて大飛躍の今年、これからも大注目の選手だ。予選順位で試技順が決まっている大会の場合はやはり前半では点数があまり出ないものだが、今回は、フープでの試技順が3番の坪井が18点台を出してしまったため、「この先、どんな点数が出るのか？」波乱ぶくみの序盤となった。その後、A班のフープではやはり推薦枠の穴久保璃子(イオン)が17.250、谷川莉奈(町田RG)が17.700と高得点をマークした。

ボールA班では、篠原綾子(ふじしま新体操クラブ)が、入魂の演技で唯一の18点台。しかし、谷川、穴久保、坪井も17点台でつづき、協会推薦という期待に十分応える成績と演技を見せてくれた。谷川は、とにかくアピール性の高さはいちばんの選手で私も大のお気に入りなのだが、今回、1種目目のボールでは落下1回とあちこちでふらつきが見られ不安な立ち上がりだったが、2種目目のフープで持ち直し、持ち前の身体能力と魅力満点の演技を十分にを見せてくれた。谷川の魅力は股関節が柔らかいため、気持ちのいいほど開く横開脚のジャンプ、滞空時間が長く、200度近い開脚の空中姿勢が見事。穴久保は、イオンの先輩である山本千尋、堀内美由優に雰囲気がよく似ているが、柔軟性はおそらくいちばんある。今はまだ6年生で、演技に不安定なところがあるが、柔軟性を生かして堀内、山本とは違った個性のある演技をする選手になりそうで楽しみだ。また、今回は、各種目ミスが出て、得点が伸びなかった高安映理(ピュアRG)も推薦枠。今回は万全の演技はできなかったが、実はまだ5年生。5年生とは思えぬスタイルと柔軟性をもち、難しい手具操作にも果敢に挑戦する意欲的な演技を見せる選手で1年後、2年後に期待がもてる。

個人的に、A班で印象に残っているのは、庄司七瀬(山形新体操クラブ)で、2種目とも17点には届かなかったが、安定感とスピード感のあるターンで、16点台後半をマーク。特に後ろバランスターンがすばらしい！ 青山三奈(チェルシーいちご組)も、しっかりした演技で、2種目とも17点台。身長があり、見映えのするいい選手だが、同じチェルシーの青木玲奈と、似たような曲、振り付け、レオタードなのが惜しい気がする。青木にはない雰囲気をもった選手なだけに、長身を生かしたもっと大人っぽい演技が映えるのではないかと思う。シニアになってからの飛躍が楽しみな選手だ。

思いのほか高得点が出たA班のあと、B班になると、点数が伸び悩む選手が多かった。演技的にA班とそれほど差があるようにも思えなかったが、ちょっとしたミスが多かったことが影響したのだろうか。そんな中で、坂西真弥(松永RG)は、2種目とも17点後半。松永らしいパワーのある演技をする選手だが印象的なのは笑顔。非常にアピール性のある満面の笑みをポイントごとに見せる選手で「楽しそう」に演技するところに好感がもてる。中里麻利恵(山形新体操クラブ)も、A班の庄司同様、ターンがうまい。また山形の子全般に言えることだが、つま先が美しい。常につま先を意識し伸ばすことができるし、「まっすぐ以上、かぎ針」状になるまで伸ばせるつま先と甲をもっている。山形の選手はすべて同じように美しいつま先をしているため、かなりバレエのレッスンをしているのではないかと思われ、感心するばかりだ。

観戦仲間の中で期待が高かった村井桃子(ふらねっと)は、フープ、ボールともに17.100とやや点が伸びなかった。2種目とも大きなミスはなかったが、村井特有の「ふんわり」とした動きが、ときに演技にメリハリがないような印象を与えていたようにも思われる。かなり難しいことをやっ

「どうだっ」という感じがなく、淡々とやっているように見えてしまう。それが村井の演技のよさでもあるが、今回はそれがちょっと淡泊な演技に見えてしまったように感じられた。しかし、脚の強さは相変わらずで、座のターンから回りながら立ち上がるという高難度の技も軽くやってのけるのには驚いた。

C班に入り、フープでは西澤朋恵(KANAI RG)が、いきなり 18.750 というここまででの最高点を出す。そして、西澤の次に登場した安部ともな(松永RG)が、かなりインパクトの強い演技で 18.200。さすがに上位グループという高得点が出始めた。安部は、まだ中1だが、昨年の九州小学生大会の優勝者。なんとといっても、座のターンは抜群の安定性があり、3~4回は回っているのではない。後ろバランスのときに上げる脚がぴーんと伸びているのも特徴で、小柄なだけにスピード感のある演技を見せてくれた。シーナキッズ九州特派員のイチオシ選手・緒方ひかり(席田新体操クラブ)は、2種目とも大きなミスなくまとめ 17.550、17.650。だが、その独特の間のある情感あふれる演技は、点数以上の強い印象を残した。緒方がMG起きのときに軸足をしっかりと高くルルベして、空中から引き上げられたように起きるのには感動。すべての難度をきちんきちんと確実にやろうとしているのが感じられるていねいな演技で好感がもてた。

そして、C班には、全日本ジュニアに個人選手を5人送り込んでいる飛行船新体操クラブから3人の選手が登場した。黒岩日菜、高橋麻理子は1種目目のポールで 18.850、18.300、井上実美は、1種目目のフープでは2回の落下がありながらも 18.250 と揃って 18 点台をたたき出し、今のクラブの勢いを感じさせた。飛行船の演技はミスがなければ、TV4点台、AV6点台、EX8点台がほぼ出る演技で、それだけの点数を確保できるだけの構成力があり、またその演技をこなせるだけの能力を選手それぞれにつけていることが感じられ、改めてその「強さ」にうなるばかりだった。2種目目のフープでは、黒岩は 17.475、高橋 18.300、井上にいたっては2種目目のポールで 18.950 をマーク。これはA~C班をおえて2種目とおしての最高点である。井上の演技は、笑顔といきの良さが特徴だが、このポールは、少し趣の違う妖しい雰囲気があり、印象に残るいい演技だった。黒岩は、フープではややミスが出たが、大人びた雰囲気のある選手で、憂いのある演技がよく似合う。高橋はとにかくスタイルがすばらしい。よく見ると柔軟性にはあまり恵まれていないように見えるが、それでも確実にていねいに難度をとっていき、長い手足をいかしたのびのびとした演技ができているときは本当に美しい選手だ。C班修了の時点では、飛行船の強さがまたしても強烈な印象を残し、「どこまでいくのか?」と思われた。

ブロック上位者が集まるD班。ポールには古城梨早(飛行船新体操クラブ)が登場するが、途中でポールをはじき、隣の男子フロアにとびこむ大場外。予備手具を置いてなかったため、かなりのロスになり、まさかの 16.950 と波乱の幕開けとなった。フープの4人目・東川歩未(町田RG)が、気迫のこもった演技で 19.700 とこの大会初の 19 点台を出すと、つづいて登場したポールの臼間野香里(熊本RG)は、貫禄すら感じさせる万全の演技で 20.000 と応酬。東川の演技は、流れるような美しい動きが身上。この日も参加選手の中でもひとときわ地味なレオタードだったがその分、細いながらも女性らしい美しい体の線もアピールされ、今の新体操ではあまり見られなくなってきた「女性らしい美しさ」を感じられる演技だった。筋力強化の結果、がっちりした印象の選手が増える中、華奢

な東川の演技には、はかなさ、けなげさがあり、とくにジュニア最後の試合になるこの日は、その懸命さが伝わってきて見ていて涙が出そうになった。小さい体を惜しみなくいっぱい使って、力の出し惜しみのない演技には胸をうたれた。

臼間野は、東川とは逆に、どんなに難しいことをやっても「余裕」すら感じられる安定感と、曲と本人のイメージ、振付が「ゾクッ」とするほど合っているところが最大の魅力。どうしても難度の羅列になり、曲の調子をいかしきれずただBGMのようにになっている選手も多い中、臼間野の演技は、曲を聞けば、「この部分ではこう」と思い浮かぶような曲と振り付けの一致がほかの選手にはない強い印象を残した。顔の表情も淡々、きりっ、笑顔と使い分け、独特の世界を描いていたように思えた。そんな臼間野の迫力満点の演技のあとに登場した優勝の可能性もあると予想されていた山本千尋(イオン)のボールの演技はまるで前に出た臼間野の演技に呑み込まれたかのような生彩のなさで、18.850。どこが悪いというのではないが、全体にぴりっとしない演技で、イオンカップで21点台を出したときの勢いは感じられなかった。山本も線が細く、それゆえにときには危うさに見えてしまうことのある選手だが、今年はぐんと安定感が増してきていたが、この全日本ジュニアでは臼間野のあとという試技順のせいもあってか、不安定さのほうが目についてしまった。そして、優勝候補の筆頭であった堀内美由優(イオン)のボールの演技を迎えるが、堀内の演技は全体的にボールが手についておらず、転がしが途中でおちるなど「ハッ」とさせる危ない部分が何か所かあり、なんとラストの投げの足キャッチをはじき、ボールがないまま演技を終了。体の動きも今ひとつ中途半端な感じがぬぐえなかった。点数は19.900と臼間野と0.1しか違わないが、見た者はそれ以上の差を感じてしまったのではないか。2種目目に入り、今度は臼間野がフープでも万全の演技を見せ、20.300と、「これでもか」と強さを見せつける。その後の山本はやはり本調子とは言えない出来で18.950。臼間野の圧勝と思われたが、東川がボールで、19.800と追いつがる。東川のボールはリバーダンスの激しい曲に乗り、ステップを踏む場面の多い演技で、東川のつま先の美しさももっとも出ている演技であり、この土壇場でもそのよさをあますことなく発揮した全力投球の演技を見せてくれた。そして、堀内は2種目目のフープでもプレッシャーからか動きにかたさが見られ、19.600。東川と同点2位となる。日高舞(安達新体操クラブ)は、イオンカップでは、すばらしい演技でボールでは20点台をマークした伸び盛りの選手だが、初日は、19.400、19.550におわった。大きなミスもなく悪くない演技だったが、あと一步、イオンカップのときほどの気迫が感じられなかったように思った。

1日目をおえて、臼間野、堀内、東川(同点2位)、日高、山本…。

「堀内美由優の連覇に黄信号！」

しかし、これは大波乱つづきの2日目へのプロローグにすぎなかった。

2002年 全日本ジュニア新体操選手権②

(10月20日/代々木第一体育館)

注目の2日目。

A班では、クラブの試技順1番の青山三奈(チェルシーいちご組)が、いきなり 17.775 を出し、今日も序盤とは思えぬ点数の出方をしそうな予感。リボンの4番で登場した谷川莉奈(町田RG)も、リボンのよく動くスピード感のある演技で、17.775 をマーク。村田琴実(松永RG) 17.650、坪井保菜美(ジャスコ岐阜)もリボンの動きがシャープないい演技を見せ、17.375。TVがとりにくく、ミスも多いといわれるリボンにしては好調なすべりだしを見せた。クラブでは、篠原綾子(ふじしま新体操クラブ)が1日目のボールに続き、17.875 という高い得点で、A班の中では数少ない中3生の意地を見せた。全日本ジュニアでの篠原は、東京ジュニア、関東ジュニアに比べて、自信に満ちた堂々たる演技で、つま先などにも神経がいき届いているように感じられた。また、ボール、クラブなどは手具操作で独自性のあるものが入っており、持ち前の柔軟性もいかしたいい演技をしていたと思う。ジュニア最後の大きな大会に賭ける意気込みが伝わってきた。

A班の最後では、坪井がクラブを最後に落下しながらも、18.150。これがA班では唯一の 18 点台となった。

B班に入り、1日目に点数が伸びなかった村井桃子(ふらねっと)は、演技に生彩を欠き、2種目ともまさかの 15 点台。さらに東京ジュニアでは2位だった、矢込唯(町田RG)前日から引き続いて1つ1つの技の確実性を欠く演技で、クラブでは落下もあり、2種目とも 16 点台と点数を伸ばせず。矢込は、柔軟性、アピール性のある選手だが、調子の悪いときは、技、手具操作とも不安定さが出てしまうが、この大会ではその悪いときが当たってしまったようだ。一方、初日の1種目目(フープ)では、16.050 と点数が伸びなかった佐津川愛美(アンジュRG)だが、ボールで 17.250 と持ち直したのを受けて、2日目のリボン 17.400、クラブ 17.850 と健闘。鍛えられたしっかりした脚で、跳躍力があり、どの種目もドラマチックな演技が印象に残った。細田彩花(アーネストRG)は、前日は 17 点中盤に点数をまとめていたが、2日目は、リボンでミスが出て 16.325、クラブも 17.125 と伸びきれず。小柄ながら、いつも精一杯大きく動きびきびとした演技で、とても好感がもてるだけにこれからがんばってほしい選手だ。

2日目、中里麻利恵(山形ジュニア)は、好調で1種目目のリボンで 16.875。演技の中に、横バランスでのスローターンが入っていたが、脚をとともきれいに真上に上げながら、ルルベがまったくぐらつかず、落ちずに天井から引っ張られるようにすうっと1周回っていたのには驚いた。どうしても途中でグラグラする選手の多いスローターンだが、中里のは見事だった。2種目目のクラブでは、B班で唯一の 18 点台となる 18.025 をマーク。まだ中2なので、来年に期待したい選手の1人である。

B班まではほぼ前日と同じような展開で、「意外に点数の出たA班」「点が伸び悩んだB班」という印象だった。このあと、前日とおなら、C班からぐっと点数が伸びるかと思っていたのだが、世の中なにが起るかわからないものである。2002 年秋、第 20 回全日本ジュニアの波乱はここから始まるのだ。

C班トップは、クラブの緒方ひかり(席田新体操クラブ)。緒方のクラブは、前日の大人っぽい演技とはうって変わったキュートな演技で、18.350 をマーク。2種目目のリボンではややミスが出て 16.375 におわったが、こちらも女性らしさと楽しさを感じさせる演技で印象に残った。初日好調だっ

た西澤朋恵(KANAI RG)と安部ともな(松永RG)は、2日目も好調さをキープ、2人ともリボンは17点台におわったが、クラブでは西澤 18.450、安部 18.225 と、確実に得点を重ねた。

しかし、初日は好調に18点台の演技を見せていた、飛行船の選手達にここで異変が起こる。1種目目のクラブでは、井上実美、黒岩日菜とも落下が1回ありながらも踏みとどまって、17.875、18.225。しかし高橋麻理子は、1種目目のリボンでミスが出て17.375と点が伸びず。この3種目目でのちょっとしたミスが最後の4種目目に響かないといいと思っていたのだが、高橋は4種目目のクラブでは落下を繰り返し16.875、井上はリボンで演技の冒頭で、いきなりリボンを予備手具と交換(どうしてそうなったのかは今でも謎)。その後も手具の落下、からまりなどミスが続き、まさかの15.900。黒岩も、井上につられたかのようにミスが出てリボンは17.575。昨年からの好調な飛行船しか見たことのない私には信じられないこの日の展開となった。この時点で、初日を6位で折り返した井上よりも上に、A班の坪井がくるという波乱が起きた。

また、C班では、浅野みわ(NPOぎふ)が、17点後半～18点台に4種目ともまとめ、C班の中では西澤に次ぐ成績を上げた。華やかなレオタードと鍛えられた筋力が印象的な選手で、ジャンプがすごい。激戦区東海を2位通過した選手だけのことはあると思わせるものがあった。

そして、いよいよ最終D班。いきなり登場するのは初日2位の東川歩未(町田RG)。クラブの演技は、ところどころ、クラブがあまり動いてなかったり、投げ受けの位置がずれたり、ひやっとするところがあったものの、そういう小さなミスを感じさせない堂々たる演技で、この日最初の20点台、20.050をたたきだした。一方、臼間野香里(熊本RG)も、リボンの試技順1番で、東川のすぐ後に演技をしたが、これがまた風格のある演技で、途中1回、リボンの落下があったにもかかわらずまったく動じるところなく演じきり、20.550。リボンの演技は余韻を残すようにおわる最後のポーズがとてもすばらしく、ゾクッとするものがあった。

日高舞は、クラブでは19.700をマークして上位に追いつがるが、最終種目のリボンでは落下があり19.025、上位3人には惜しくも届かず。まだ中2なだけに来年に期待したい。そして、初日に不安定な演技で、2位にあまじた堀内美由優(イオン)のリボンに注目が集まったが、このリボンの演技が、今までにない堀内美由優を感じさせるすばらしい演技だった。出番前の練習中にあまり動かず、岡コーチとずっと話し込んでいる姿も見られ、精神的に追い込まれているのではないかと心配された堀内だが、本人も体操協会のインタビューで答えているように、なにか1つふっきれたような、リボンの演技で、本人も言っているように「挑戦する気持ち」を取り戻したのか、リボンの動きがいきいきとして力強く、20.525。臼間野には及ばないが、勝負を最後の種目にもちこした。追われる臼間野にプレッシャーがかかることが心配されるなか、臼間野の最終種目クラブの演技は、プレッシャーなど吹く風という力強く、落ち着いた演技で20.925。この時点で、ほぼ優勝を確実にした。東川も最終種目のリボンを19.550にまとめ、4種目に安定した演技を見せることができ、演技終了後には満足気な笑顔が見られた。そして、いよいよ、堀内のクラブの演技が始まった。初日とは別人のような演技を見せたリボンでの気迫はここでも見られ、軽快にキュートに動く堀内本来の演技で、20.975。2日間、4種目とおしての最高得点を上げたが、総合得点では臼間野には及ばず。堀内にとっては、ミスが出た初日の2種目が悔やまれる結果となったが、追い込まれた2日目に見せたリボン、クラブの演技は、今までの堀内にはない強さを感じさせるもので、ジュニア

最後の大会でなにかひとつ殻をやぶったように見えた。ただ、臼間野の演技に比べると、どこか印象が薄いというのが私の正直な感想である。せっかくこんな土壇場でここまでの演技をできる力があるのなら、もう少し、自分の意思で動いている、自分の気持ちを表現しているという感じが演技に出てくれば、より飛躍できるのではないかという予感がした。

また、臼間野、東川の表現力豊かな演技は、手具をもっていない空いている方の手の動きが表情をもっていることにも所以するよう思う。とくに、まだ学年も下の選手などは、どうしても空いている手が不用意な位置にあったり、ぎこちない場合が多く、それが演技の流れを止めてしまったり、せっかくの演技を「技の羅列」に見せてしまっている。決めるときは指先までピシッと決め、ときには指の1本ずつをやさしく動かすなど、手具をもっていない手で物語る選手の演技からはなにかが伝わってくるのだ。さらに、音楽に合わせた動きはもちろんのこと、顔の表情、目線などでよりアピールすることが上位に抜け出る選手には必要なようだ。今回の臼間野の演技は4種目とも、ミスが少なく確実だったことのほか、印象の強さで群を抜いていたが、それは、音楽にマッチした演技で表現力を感じさせることができたためではないかと思う。

おわってみれば、臼間野、堀内、東川、日高、山本と上位は初日のまま変動はなかったが、その下に目を向けると、2日目になってミスが出て、思いがけない点数におわった選手もいたため、かなり初日順位とは違っていた。意外な展開になった2日目だったが、上位3人は、すばらしい演技を見せてくれ、今年のジュニア大会を締めくくるにふさわしい大会だった。

日高舞：2002 全日本ジュニア4位

(フープ 19.400/ポール 19.550/クラブ 19.700/リボン 19.025)

2002年 全日本ジュニア新体操選手権③ 団体競技 (10月20日/代々木第一体育館)

今大会の最後を飾る団体競技が始まる時間には、広い代々木体育館の観客席も、正面側は満員状態。各クラブを代表して出場する選手達への応援が、公式練習の時間から熱く会場に響いていた。

出場19チーム中、6番目に登場したのがウーマンズ新体操クラブ。本来なら、もっとあとの試技順でもおかしくないはずのウーマンズであるが、関東ジュニアで5位という思いがけない成績におわったため、早い試技順となってしまう、やや不利かと思われた。しかし、公式練習では夏よりもいちだんと揃った演技を見せており、「今度こそは」という選手達の気合いが伝わってきた。白のスカート付レオタードがよく似合う、スタイルのよいウーマンズの団体は、最初のポーズをとっただけで美しい。しかし、演技が始まり、快調にすべりだしたと思ったとたん、交換でもないところでフープを落下。ウーマンズの応援席が一瞬凍りついたように感じられたが、その「あっ!」という気持ちは、選手にも重くのしかかってしまったように見えた。「もうミスできない」という気持ちは、選手達を慎

重にし、その結果、大きなミスはその後なかったが、動きがどことなく重く、小さくなってしまったように私には見えた。また、投げ受けのあとの難度などは、5人中1人が明らかにずれるところがときどき目についた。しかし、もちろんここまででは最高点の21.850。かなり高い得点であるが、なにしろ試技順が早いので、あとのチームの出来にすべてがかかってきてしまった。

初の団体での全日本出場で注目されたイオンは、素晴らしいスタイルの団体で、振り付けにも独特の味わいがあり、魅力はあったが、この日は交換などミスが出て、18.450におわった。しかし、まだ学年が下の子達の団体なので、来年以降の台風の目になりそうだ。

町田RGも、大胆なレオタードだが、それを見事に着こなせるスタイルのメンバーが今年の団体には揃った。2月のクラブ団体選手権(ロープ×5)で優勝したメンバーがほぼ、そのまま残っている団体だけあって、かなり息もそろっていた。バランスやフェットなど、難度を実施するときの揃い方は、ウーマンズ以上のものがあったが、やはり投げ受けだけはやや不揃いに見えるところもあった。しかし、とにかく身体能力の高い5人で1つ1つの動きが大きく、町田らしいイキのよさのある団体で躍動感があり、とてもよかったように思った。落下が1か所あったが、21.300。ウーマンズにはわずかに及ばなかったが、甲乙つけがたい出来であった。

昨年パワフルな演技で強い印象を残した松永RGは、今年も身体能力の高い選手をそろえ、レベルの高い演技を見せたが、やや演技が単調な印象が残った。造形や連携などでの見せ場が少なく、交換が多かったように感じてしまったが、さすがに20.250という高い得点であった。

ブロック大会上位の9チームが登場するB班のトップバッターは、安達新体操クラブ。関東では2位になっているが、非常に身長、スタイルにばらつきのある団体で、同調性という点では不利かと思われたが、このチームが関東のときよりも、数段の進歩を感じさせる素晴らしい演技を見せた。とにかく揃っているのである。ウーマンズ、町田の演技もすばらしかったが、そのときに感じた、投げ受けでのずれがほとんどない。ないだけでなく、まるで「びしっ」と音がしたように感じられるほど、受ける瞬間が揃うのだ。ジャンプ、ターンなどあれだけ体格に差があれば揃える苦労は並大抵ではないと思うが、見ていて「ソクッ」とするほど、この日の安達の演技は、揃っていた。また1人1人が、ミスをこわがらず堂々と、明るく笑顔で動けていて、「これが団体だ」というお手本のような演技に、興奮してしまった。「ああ、これは高い点数が出る」と思ったら、22.100。これから登場する上位チームに十分なプレッシャーをかけられる点数をもぎとった。

その後に登場した、ヴェニエラRG(19.450)、熊本信愛女学院中学(19.800)、宝塚サニー(20.750)の演技は、1人1人を見るとずば抜けて高い能力の選手ではないように見えるのだが、団体としてのまとまりは素晴らしいものがあり、個人でも実績のある選手が多く入っているウーマンズや町田の団体にも決して見劣りのしないすばらしい演技で、「これが団体の魅力、良さだ」ということを見せてくれた。

いよいよ、ラスト3チームを残すのみとなり、この夏、ミラクルを起こし続けてきた、ねもと新体操クラブが登場。注目の入りの技(4本のフープを1人の選手が蹴って、ほか4人の選手の目の前に止まるように滑らせる)も、ほぼ完璧に決まり、大きなミスなくまとめることができた。先生の気迫が選手達に乗り移ったような執念を感じさせる演技は、関東ジュニアを彷彿とさせるものがあり、以前に比べ、1人1人の能力は決して高くないと言われる現在のねもとの団体だが、「ここまでやれ

る！」という意地を見せてくれた。ミラクルねもとは、今回も健在！ で、得点 21.000。この時点で4位につけた。

最後から2番目に登場したのが、昨年全日本ジュニアで初優勝をとげ、関東ジュニアでも圧倒的な強さを見せつけて優勝している飛行船新体操クラブ。メンバー5人中4人が、個人でも全日本ジュニアにも出場しているという選手層の厚さを誇る今の飛行船に敵なし、に思えた。ただ、個人でも最終種目では、疲れが出たのか全員ミスが多かったこと、直前の公式練習でも交換でミスがでて場外していたことなど、「調子は今ひとつなのかもしれない」という一抹の不安はあった。しかし、この2分半を踊りきれば、おわりなのだから、最後の気力をふりしぼってでも、いい演技を見せてくれるに違いないと信じて見守っていたのだが…。

演技開始直後、5人がパラパラに動くところは、いつもの飛行船らしい表現力を感じる動きで「これだ～」と思いながら、見る事ができた。が、そのあとから、微妙に演技が揃わない。関東ジュニアのときも、大きなミスはないものの揃い方はあと一歩ではあったが、この全日本ジュニアに向けて練習を重ねてきたことは間違いないだけに、夏よりもっと精度の上がった演技が見られると思っていたのだが、少しずつ1人がずれたり、遅れたりするところが目についた。

嫌な予感がした。

「今日の飛行船はなにかが違う」と。昨年の関東ジュニア、全日本ジュニアで見たあの「揺ぎない自信に満ちた演技」とは、なにかが違っている…。今年関東ジュニアのときでさえ、もっと堂々と演技していたのに、一体なにかが違っているのだろう、と思っているうちに、落下。さらに交換のときに空中でフープがぶつかって転がり、選手がかなりの距離フープを追いかけてしまう。「あ～～～～」会場中に悲鳴が上がり、息を呑んだ。「こんなことがあるなんて？」だれもがそう思ったし、もしかしたら選手もそう思っていたかもしれない。「まさか」のミスを連発して飛行船の演技がおわった。19.950。だれも想像しなかった点数である。選手は泣いていたようだった。悔やんでも悔やみきれない演技であり、結果だったのではないだろうか。

私も、にわかには信じられなかった。飛行船のこんな演技は初めて見た。選手達のほとんどがまだ小学生だった、99年の関東ジュニアのリボンの団体のときでさえ、本番では練習以上の演技をきっちり笑顔で決めていたのに…。しかし、これが新体操、ましてや団体のこわさなのだと思い知らされたような気がした。どんなに素晴らしいチームでもなにかがちょっと狂えばミスも出る。ミスが出れば、くずれてしまうことがあるのだと。

しかし、飛行船の団体は中3が2人だけで、まだ中2にいい選手がたくさんいる。いつも、「前進すること」だけを考えている飛行船にとって、今回の失敗も教訓や励みにこそなれ、傷にはならないと私は信じていた。ジュニアの団体では5人そろって意思をもって表現力豊かに動くことはなかなか難しい(揃えること、ミスしないことに気をとられがち)だが、そうではない個々の強さを感じさせてくれる飛行船の団体。また、毎回音楽をいかした振り付け、構成で「見る人に楽しんでもらいたい」という思いが伝わってくる飛行船の演技が私は大好きだし、ファンも多い。「まだまだこれから！」と、きっと、先生や選手達も思っていると信じたいし、少なくとも私は、「まだまだこれから！」と思っている。来年の今ごろ、もう一度、素晴らしい結果を手にしたときには、2002年のこの失敗は、飛行船

にとつての「伝説」になるに違いない。

思いがけない展開になった、団体競技だったが、つくづく「あきらめてはいけない」ということを感じた。優勝した安達も8月の関東ジュニアのときは、これほど強い印象の残るチームではなかった。2位のウーマンズ、3位の町田RG、4位のねもとも、7月の東京ジュニアの時点では「全日本ジュニアは大丈夫？」と思われる程度の完成度だった。それが、短期間でここまで来るのだから。指導者の熱意、選手達のもつ力を最大限に発揮すれば、可能性は無限なのだと、思い知らされた団体競技だった。

2002年 全日本選手権1日目 (11月2日/静岡ツインメッセ)

静岡の朝は寒かった…。

11月2日、待ちに待ったオールジャパン！

深夜に東京を車で出発して、静岡ツインメッセに到着したのは、ほぼ3時半。さすがにだれもいないか、と思ったら、やはり、いました！ 熱心な撮影の方達と出場される選手の身内の方。私達はグループにして3番手。

「11月だし、まさか早朝からは並ばないよね」と言って出てきたのに、すでに並んでいる人達を見たら、条件反射のように並んでしまう私っていったい？ 連れが車でもってきてくれた、レジャーシートを敷いて、布団をかぶって、仮眠をとる。夏の茨城につづいての野宿…この根性が仕事にもあれば私の人生は変わっていただろうに(泣)。

8時すぎに開場し、整然と入場。この大会は、入場前の列への割り込みや入場時に走るなどの混乱への対応がかなりきっちりしていて、感心した。とくに警備の中心となっていた見るからに体育会系の女性が、てきぱきしていて声も大きくすばらしい仕切り方だった。どの大会でもこういう人が1人いてくれたらなあ、と思わずにはいられなかった。

静岡ツインメッセは、本来は展示場とのことで、観覧席のないところに、仮設の観覧席を設けていたため、大勢が観覧席につめかけたときのことを考えるとちょっとコワイものがあつたが、その心配は杞憂におわつた。私が行ったのは、1日目だけだが、かなりすいていた。3時半から並ばなくても、開場時間に来ても十分正面席にすわれたらというすき具合。「ああ、なんのために3時半から並んでいたのか？」と、悲しくなってしまった。

しかし、仮にも「全日本選手権」である。だれでも出られる大会ではないし、ここに出るために何年も努力を重ねてきたはず。それなのに、観客がこれだけ？ 新体操がマイナースポーツといわれる所以がわかるような気がしてしまった。

そんな閑散とした観客席ではあつたが全日本選手権はスタートした。A班では、期待の掛野早絵

選手(別府鶴見ヶ丘高校)が、ロープの1番手であった。いつものごとく笑顔のかわいらしい掛野選手だったが、この日の演技は冴えなかった。そるべきところがまったくそれず、逆イリュージョンなどは頭がまるで下がっていない。お得意のひじ倒立もほとんど止まれず。あまりの不調に「どこか故障しているのではないか？」と心配になってしまった。2種目目のフープでも不調は変わらず、ちょっと心配である。

ロープの2番手は、ジュニアで勝ち残ってきた西澤朋恵選手(KANAI RG)だったが、このロープの演技はかなり出来が悪かった。ジュニアはこのところロープが種目からはずれていたため、明らかにこなれていない。おまけにロープに気をとられてか、つま先が非常にゆるい。いつも、きっちりと丁寧に演技をまとめる西澤選手とは思えない演技になってしまった。「ジュニア選手にとってはロープが鬼門」という予想がぴったり当たってしまったようだ。

全体的に低調だったA班だが、その中で、目を引いたのが村上唯菜選手(活水中学)のフープの演技だった。村上選手は、全日本ジュニアへの出場は逃したものの全中で上位に入る活躍を見せ、全日本選手権に駒を進めてきた選手だが、この日のフープの演技はすばらしかった。長い脚、抜群の柔軟性をいかした演技は非常に印象に残ったが、やはりロープでは、こなれない部分が見られた。

B班は、ジュニアからは、全日本ジュニアには駒を進められず涙をのんだ佐藤由佳選手(昭島市立瑞雲中学)が全中の好成績により出場。所属クラブのウーマンズでは、前日の全日本ジュニアに向けて団体の練習中心だったと思われるが、健闘を見せた。ただ、このところ、同じジュニアでも日高、臼間野のような「しっかりした」演技を見せる選手が増えてきているので、佐藤選手のような華奢なタイプの選手は、総じて演技の不安定さが目立つようになってしまったように感じた。シニアになってから、よりたくましさを増しつつ、今の「可憐」な雰囲気はなくさないでほしいと思う選手である。

「しっかりした」ジュニア選手の筆頭・日高舞選手(安達新体操クラブ)も、B班で登場。今回もかなり安定感のある演技を見せ、A、B班では2種目おえてトップの成績であった。まだ中2ということを見ると、来年が楽しみな選手だ。

青木玲奈選手(チェルシーいちご組)は、全日本ジュニアで話題になったフープの演技(曲がサウスポーだった!)を曲も振り付けもがらりと変えてきた。今回は壮大な印象の曲で、サウスポーよりは審判受けはよさそう(笑)に思えた。青木選手の演技を見てみると「得意なことをとことんやっている」という印象が強く、4種目見ると、どれも入っている要素が似通っていたり、振り付けも似たようなものが多いことが気になる。体型がチャイルド時代とほぼ変わらないのは、どれほどの努力をしているのだろうと思うと頭が下がるが、それゆえに「シニアらしい」雰囲気を出していくのが難しそうだが、高校以降どう化けてくるのか注目したい選手である。ただ、青木選手に見られる「4種目とも似たような構成」というのは、現在のルールではどの選手にも共通して見られる傾向と言える。このところ、難度を認める基準がどんどん厳しくなっているようなので、ますます選手は「得意なこと」「完成度の高いもの」しか演技には入れられなくなってくるため、「できることだけでつなぐしかない」とはなってくるのはいたしかたないのだろうが、ちょっとさびしい気がする。

その点、小林早希選手(佐賀女子高校)、和久田麻美選手(秋川新体操クラブ)などの演技は、昔

ながらの新体操のよさを残しており、魅力的なものだったように思う。2人とも視線や表情、難度以外の動きで、すばらしい表現力を見せてくれた。この先、こういった個性を感じる演技は少なくなってくるだろうと思うと、残念である。

C班では、とにかく東川歩未選手(町田RG)の健闘が光った。ジュニアで勝ち抜いてきた東川選手も、おそらくロープの演技はあまり練習していないものと思われるうえ、以前ジュニアでやっていた演技とは曲も振り付けもぐっと大人っぽいものに変えてきた東川選手。おそらく「十分練習を積んで」はいなかったはずだと思うが、多少のぎこちなさはあっても、「あきらめない演技」を見せてくれた。この夏の東京ジュニアのときは、プレッシャーからか、かなりアブナイ演技を見せていた東川選手。正直言って、この3~4カ月でシニアに入ってもひけをとらない選手に成長するとは、想像できなかったが、まさに大化け。華奢なジュニア選手の中では圧倒的な安定感、根性を感じさせる演技、キュートから優雅まで演じ分ける表現力は、シニアになってからますます磨きがかかるのではないかと、期待をもって見守りたい。

アジア大会予選を棄権していたため、心配していた山田樹選手(東京女子体育大学)は、健在ぶりを示すパワフルな演技を見せてくれた。スピード感のある動き、巧みな手具操作は見るものをスカッとさせる山田選手ならではのものだ。これからも山田ワールド炸裂の演技を見せてほしい。さすがにC班あたりからはミスも少なく、迫力のある演技が増えてきて、朝3時半から並んだ甲斐もあった、と思えるようになった。睡眠不足からかなり眠気も襲ってきていたが、このあたりではすっかり眠気もさめてきた。さあ、いよいよ注目のD班である。

今回の全日本選手権1日目のD班は、とても出来がよかったと思う。どんな大きな試合、力のある選手でも「あ~あ」とため息が出てしまうようなミスが、本番では案外出てしまうものだが、今回、そういった大きなミスが見られたのは、臼間野香里選手(熊本RG)と林芳江選手(東京女子体育大学)くらいだった。林選手はフープに関してはすばらしく、大学進学後、見るたびに自信をつけているのがよくわかる、伸び盛りの選手であるが、今回のフープの演技もすばらしかった。しかし、ロープでは、見せ場のMGまわりでバランスをくずし、その後、動揺からかロープをつかみそこなうミス。「ミスをするとも最後までくずれてしまう」と言われていた高校生時代の林選手を彷彿とさせたが、さすがにその後は、きっちりまとめることができ、成長ぶりを見せつけた。しかし、フープの出来がよかっただけに、ロープでのミスが惜まれる。次はぜひ4種目パーフェクトな演技を見たいものだ。

D班で気の毒だったのは、今年全日本ジュニアチャンピオンの臼間野選手だった。1種目目のロープは明らかな調整不足。「ひょっとして演技作ったばかり？」と思うほどこなれていなかったし、大きなミスが3か所ほどあった。手具操作が不安定なため、徒手要素にまで乱れが出てしまい、本来の臼間野選手なら考えられないようなぐらつきもあった。2種目目のフープは、全日本ジュニアですばらしい演技を見せてくれた種目だったので、挽回を期待したが、曲が30秒以上始まらないというアクシデント。よりによってひじで倒立して、開脚したかなりきつい姿勢で、ひたすら待つ臼間野選手。30秒すぎにさすがにぐらつき、やり直しになったのは、幸いだったが、やはり集中力には欠ける演技で、臼間野選手の淡々とした表情が、ただの「無表情」に見えてしまったのは残念だっ

た。しかし、臼間野選手はまだ中2ということを見ると、来年はおそらくシニア選手にもひけをとらない情感豊かな演技を見せてくれるものと思われ、楽しみだ。このところの、アジア大会予選などでは、凡ミスが目立った高橋彩絵選手(東京女子体育大学)も今回は、最後まで気持ちの切れない演技を見せてくれた。とくにフープの演技は、ふじしま時代を思わせる清楚な感じのレオタードに得意のしっとり系の演技で、「これぞ高橋彩絵！」と思わせるものだった。東女に進学してから、それまでとは違う雰囲気にも挑戦している高橋選手、それはそれで「新しい魅力」の予感はあるが、やはり「美しい高橋彩絵」は安心して見ていられる。

シニアになってから大きな試合でのミスが目立ち、今ひとつ伸びきれない感じのあった大貫友梨亜選手(ウーマンズ新体操クラブ)も、今回は引き締まった演技を見せた。高校生最後の年となる来年度の活躍が楽しみだ。

朝来野希美選手(東京女子体育大学)は、今回ものびやかな演技を見せた。春のアジア大会2次予選より数倍体も絞れて、女性としてもっとも美しいプロポーションで、魅力的だった。フープの演技は大学生には珍しいピンクのレオタードだったがとてもよく似合っていたし、「君の瞳に恋してる」にのせた軽快な演技は会場をわかせた。ラストに見せたコケティッシュな表情はまさに「女優」。審判が男性ならもっともっと高い点数がつきそうな演技だったと思う。たしか、東女の4年生だと思うので、これが現役最後の演技になるのだろうか。だとしたら大変残念ではあるが、まさに有終の美にふさわしいはつらつとした演技だった。

今回、ジュニア選手ではもっとも上位にくいこんだ堀内美由優選手(イオン)は、全日本ジュニア2日目に見せたふっきれた演技を今回も見せてくれた。フープでのレオタードは今までのキュートでかわいいイメージのレオタードとはがらりと変わってシャープと大人っぽいもので、これからシニアになっていく堀内選手の新しい魅力を引き出していた。体型も一時期よりはやや重さがあるが、もともと「細すぎる」くらいだったので、今の体型に合ったレオタードを着れば、以前よりもかえって「美しい線」になっているように思う。今期、全中、全ジュニと優勝を逃し、くやしい思いもしただろう堀内選手だが、苦しい思いをただけのことはある成長が見られたように思う。今後は演技にも大人っぽい味つけのものも取り入れていこうし、シニアでの活躍が楽しみだ。

山崎ひとみ選手(町田RG)は、このところずっと安定した演技を見せてくれているが、今回もほぼあぶなげない演技だった。トップクラスの選手の中では、不思議なほど演技にゆとりが感じられ、その分、ジャンプなどがとても大きく、滞空時間が長く感じられる。その間のある演技が独特な雰囲気を山崎選手の演技に与えているように思う。また、1つずつの難度の形が非常に基本に忠実で「正しい形」がよく見えるのが山崎選手ではないか。ジュニア時代ほど満面の笑顔で踊ることは少なくなったように思うが、その分、憂い顔に見えて大人びた雰囲気が出せるようになってきたのも、山崎選手の魅力だと思う。

吉田友子選手(町田RG)も、今回はアジア大会での好調が持続していたようで、2種目ともすばらしかった。2種目目のロープではあまりの演技のきれいのよさ、堂々とした動きに、「ミスするのではないか」とはまったく思えず、ビデオを撮影しながら、「いけいけ～～！」と声が出てしまった。おまけにまたしても涙が。トップクラスの選手にのぼりつめるのと、現在の新ルール導入がほぼ同時になってしまった吉田選手は、「少しずつ新ルールに慣れる」というわけにはいかず、はじめから新ルールに対応した演技に挑戦せざるを得なかったように見えていた。それだけに、さすがの吉田選

手も体にはかなり負担がかかっていたのか、ジュニア時代のようにはつらつとした表情が見られなくなったり、思いがけない大きなミスに泣いたりということも増えてきていた。正直言って、「つらいのではないか」と見えることもここ数年は多かった。しかし、今やとっかつての友ちゃんらしさが見える演技になってきた、と感じることができた。ジュニア時代のような「踊るのが楽しくてたまらない」という顔が、今回も見られて「ああ、よくここまでできたなあ」と涙が出てしまったのである。見て応援しているだけでさえ、つらくなってしまったこともあるここ数年を、本人はどんなに大変な思いで乗り越えてきたんだろうと思うと本当に頭が下がる。高校時代最後の公式戦(多分)に、こんな友ちゃんの演技を見られて私は幸せだった。ありがとう、友ちゃん！

イオンの中村八千代選手、横地愛選手は、今回も磐石の演技だった。中村選手は、イオンカップのころはまだ不安定さがあったが、アジア大会で自信をつけたのか、今回は堂々とした演技を見せた。抜群の柔軟性で、今の日本では「ほかの人にはまねできない技」や、同じことをやっても独特に見えてしまうレベルまで達している唯一の選手と言える中村選手。来年以降、世界に向けてもどんどん出ていってほしい期待の星である。

横地選手も、このところ、大きなミスを見ない安定感がある。今回はとくに、つま先やひざなど、もともとやや「粗い」と言われていた部分も非常に神経がいき届いた丁寧な演技をしていたように思う。柔軟性の分、このところ、中村選手のほうが上位にいくケースが続いているが、横地選手ならではの熟練した演技には会場の声援も大きかった。そして、優勝は村田由香里選手(東京女子体育大学)。3日目の種目別は2種目を棄権したほど、実は万全ではない体調だったようだが、1日目の演技ではそんなことはまるで感じられなかった。「にくたらしいほど」の確実な演技で、明るく元気な演技をアピールしてくれた。今、のりにのっている村田選手。アテネ五輪のときは、やや年齢的には厳しいような気もするが、あと2年の間に村田選手をしのぐ選手が登場するのはかなり難しいかもしれない、と思わせた王者の演技だった。

団体は、この日は「リボン5」であり、大学、高校ともあまり練習していない演技なのか総じて低調で、ミスも多かった。そんな中、東京女子体育大学の団体は、さすがの貫禄を見せてくれた。非常にノリのいい曲で、軽快な演技、ずい所に難度ではない魅力的な動きが盛り込まれたキュートな演技だった。大学生にしては、体型もかなりしぼっており、いい意味での「大人の演技」だったように思う。なによりも1人1人の動きが自信に満ちているところが少々なミスなど気にさせない迫力を生んでいると思った。

アテネ選抜チームの演技も、全日本ジュニアのエキジビションとは比べものならない出来で、気迫は感じられた。ただ、「迫力」の点では、東女のほうがまだ分があるようにも感じられてしまった。

3日間のうち1日しか観戦はできなかったが、念願の全日本選手権、今年は観戦できてよかった！ 長い1日だったが、充実した1日だった。

日高舞：2002 全日本選手権 22 位

(ロープ 17,550/フープ 19,575/ボール 19,250/クラブ 19,900)

2003年：日高舞（中学3年）

2003年 ユースチャンピオンシップ （5月9～11日／代々木第一体育館）

●1日目

第1回のユースチャンピオンシップ(ササキカップ)に行ってきました。170人もの出場者がいて、すごく盛大な大会だったのですが、ほとんどが高校生だし、昨日は平日の午後ということもあって、観覧席が静かなこと！ ジュニアの大会ではちょろちょろしている応援の小さい子たちもあまりいないし、お母様たちもとても落ち着いた雰囲気。そういう意味では快適な観戦でした。

が、試合のほうは、2面同時進行で、真ん中にすわった私にはどちらの音楽もよく聞こえない状態で、かなり見づらかったです。それに、普段は高体連ルールでやっているだろう高校生たち、それも、今は各地の予選に向けて団体の練習も忙しいだろう選手も多いことを思うと、気の毒なくらいですが、練習不足な感じの演技も多かったです。とくにリボンは点数のとりにくい種目だということもあって、本当に低い点数が多くて、わざわざ出てきて、これじゃあちょっと気の毒だなあ、と思ってしまったり。もちろん、現在のルールできちんと採点すればたしかああなってしまうのだろうなあ、とは思いますが。

そんななか、まだ中3ながら、日高舞ちゃんの健闘は光りました。見ていて、「明らかに違う！」と思ったら、点数もやはりだんとつ！ 決勝まで残ればあと3種目あるので、すべての種目を高いレベルでまとめるのは大変だと思うけれど、がんばってほしいです。リボンの1位が高1の東川さんだったことを見ても、やはりここ2年、苦勞しながらもジュニアのころから新ルールに対応した演技をしてきた子たちのほうがやはりこなれてはいるのね、と感じました。それにしても、日高、東川のここ1年の躍進ぶりはすごい！ どう見ても「がんばっている！」タイプの選手なので、ほんとに応援したくなってしまうます。

あと、印象に残ったのは大貫友梨亜ちゃん。昨日はフープを蹴っ飛ばすという惜しいミスはありましたが、体のキレ、気迫などはすっかり戻ってきていて、関東予選に続いていい演技していたと思います。まだまだ挽回の余地ありですからがんばってほしいです。昨年全日本ジュニアで地味ながら、実はすごい選手だ！ と気がついた緒方ひかりさんも、昨日はフープでノーミスのすばらしい演技を見せてくれました。

私は、2日目は行けないので、決勝でもう一度緒方さんの演技を見るのを楽しみにしています！
がんばって！

●2日目

予選1日目のあまりの人数と、2面同時進行にめげてしまい今日は、観戦を休んで仕事していまし

た。

でも、行かなきゃ行かないで気になるものですねー。

やっぱり明日は、なんとか行きたいな、と思っています。

結果もなるべく早く速報できるといいんですけど。

今回はまだ体操協会のHPに速報出ませんね。最近、すごく早かったのに。そのせいかここ2日のアクセス数、多いです～。明日もまたがんばりますね。

決勝の顔ぶれは、非常になじみのあるものになりました。最近のジュニアの試合を見てみると、東京優位もおわりかな？ と感じる人が多いのですが、シニアはなぜか東京優勢ですね。というか、東京優勢だったころのジュニアが今のシニアだと思えば、当然ですが。

東京勢にも応援したいけど、元が地方出身の私は、地方から来てがんばっている選手により熱い応援したい気分、です。

とくに、緒方ひかりさん！

プレッシャーになったら困るのだけど、すごくがんばってほしいです。九州の友だちが、東京での緒方さんの演技のビデオを見せると、「いつもの緒方さんはもっともっとすごいんだから」って言うんですよ。アウェーの試合だと緊張するんじゃないかって(笑)。それでも、「すごい。すてき」と感じる演技しているのだから、ホームではどんなに？ って思っているんです。どうか明日は、代々木第一がホームだと思っのびやかにがんばってほしいです。あそこって、近くに有名な九州ラーメンのお店があるんだよね。ラーメンでも食べて九州気分でファイト！

●3日目

ユースチャンピオンシップ、おわりました。

今回も、速報を中継してくれた仲間、会場で記録、計算などしてくれた仲間のおかげで、かなり早くに速報をアップできました。うちのホームページは、ほんとに新体操大好きおばさん達のネットワークで、成立しています～。

速報、楽しみにしてくれている方、多いようですが、その陰で協力してくれているおばさん達にもどうぞ多大な感謝を！

さて、今日の決勝ですが、なかなか緊迫したいい試合になりました。書きたいことはいろいろありますが、私にとっての今日いちばんの収穫だった井上実美ちゃんの演技のことを書かせてください。さすがにもう知らない人はいないかもしれませんが、ちょっと前まではほぼ無名だった、井上さんがなんと！3位でした。予選の2種目では手具のミスがあって、今ひとつの出来だった井上さんですが、見ている限り「手具のミスさえなければ間違いなくトップクラス！」な動きでした。本当に彼女の演技は気持ちいいんです。ジャンプが高くて、柔軟性があって、きびきび動く、そして笑顔！チャーミングな動き、表現。そして、なによりも「新体操、大好き！」って気持ちがあふれるように伝わってきます。

決勝ではがんばってほしい、と思っていました。1種目目のクラブではまたまたしょっぱなになんでもないと落ちて落下。でも、そのあとは気持ちよく手具操作もきまり、かなりいい出来で、クラブ単独では2位の点数。

「もしかすると、3位？ 2位？」というプレッシャーのなかで迎えた最終種目のボールは、万が一、落下すれば場外もあり得るこわい種目です。とくにいきのいい井上さんの演技だといかにも場外すれば大きそうで、演技が始まる前から私は「ミスしたらどうしよう？ 場外したらどうしよう？」とドキドキしてしまいました。

演技が始まってからも、私はもうずっとドキドキしっぱなしでした。が、なんと井上さんの演技ののびのびとして、思い切りのいいこと。見ているほうがこんなにドキドキしているのに、なんでこの子はこんなに楽しそうに、のびやかに踊れるんだらう？ と思ったら、涙が出てきました。ほんとにビデオを撮りながら、涙がつつ——と。

4種目目にして、ほぼノーミスの演技でした。最後の技が決まったとき、ほんとに涙があふれて困りました。演技を見て泣いたのは、久しぶりです。とても幸せな気持ちになりました。ボールは、大貫さん、東川さんについで3位の得点でしたが、私の心にはいちばん残った演技でした。

東京の大会はよく見ている私ですが、井上さんの存在に気がついたのは、中2の夏の中体連でした。(すみません、それまでは知りませんでした)最初は、「いい選手見つけたー！」と、まるで自分の隠しだまのような気分で見ていました。それが2年後にはこんな選手になるなんてねー。

ほんとに感動しました。そして、また勇気をもらいました。中学生くらいって、「まだまだこれから！」なんだなって。

なんだか、今夜は仕事、がんばれそうな気分です。

日高舞：2003 ユースチャンピオンシップ4位

(フープ 19.150/ボール 18.700/クラブ 18.500/リボン 14.750)

●「RG LOVERS」2003/8/8

関東中体連1日目(個人)がおわりました。結果は掲示板のほうに載せてありますが、千葉勢の圧勝でした。今年に関していえば、予測はされていた事態ですが、私が新体操観戦にはまり始めた4年前からは考えられない事態です。あのころは、上位のほとんどを東京の子が占めていました。今回、東京から全中に進むのは2人！…うーん、こんな日がくるとは、ちょっとびっくりです。

しかし、こんなものなんだろうなあ、と一方で思うし、そのほうが健全なのだと思います。どの県もどのクラブも一番強かった時期と比べれば「あら、こんなもの？」といわれてしまう時期が必ずめぐってくるのではないかと。いつもいつも強いつてことがあるとしたら、それはかなり無理をしている(子どもにも無理を強いている?)ということではないかと思うのです。

山あり谷ありしながら、それでもそのときいる子達なりの頂点に限りなく近いところまで上らせることのできる指導者がよい指導者であり、よいクラブなのではないかと。そして、そういうクラブが多い県が「強い」と言われるようになってくるのだらうと思います。現在は強い千葉県だって、低迷していた時期もあったと思います。でも、そのとき、千葉の先生達があきらめなかった、先を見据えて選手を育ててきた結果が「今」なのでしょう。だとしたら東京だって数年後にはまた巻き返せるはずだし、ほかの県にだって可能性はあるはずです。かつての東京の栄光を知っている者にとっては、

ややさびしく厳しい今年の関東中体連になりましたが(来週の関東ジュニアもこわいな～)、こうじゃなきゃおもしろくないよ！とも言えます。どこの県、どこのクラブでもいいのです。「がんばっているな～」「すてきな～」と思える演技にたくさん出会いたい、そう思います。

波乱必至？ 関東ジュニア、直前大予想！！

★全ジュニへの14枚の切符はだれの手に？

熾烈な上位争いを占う

シーナ:いよいよ明日から関東ジュニアですね～。なんだか今年は番狂わせもありそうで、ワクワクドキドキしますが。みんなの予想はどう？ まずは上位の予想からいこうか。

A:えへんえへん。私はですねー。各地の大会記録や去年の関東ジュニアの結果などを照らし合わせて予想してみたんですね。

B:おお～、すごい情熱だ。

A:その結果、私の予想は……。聞きたいですか？

C:聞きたい、聞きたい！

A:ズバリ、上位は「日高、山本、古城」。

シーナ:ほほう。ちょっと古城さんは上すぎない？

A:いや、これにはちゃんと根拠があってですねえ。関東ジュニアは決勝まで残ると4種目でしょう。そうすると、経験豊富な古城さんあたりが有利な気がするんですよ。

B:私も日高さんの優勝はかたいような気がするわ。あの迫力に勝る子は今の関東にはいないもの。

シーナ:実は私も日高さんが第一候補かな。しっかりした演技で安定感もあるものね。

C:次は、このところぐっと存在感のましてきた山本さん。

シーナ:山本さんはたしかにいい感じですね。少し太って、身長も伸びたのがいいほうに出てるよね。

A:私の予想のつづきですが、「寺澤、高安、村井、高橋、大畑、真尾、栗栖、三石、谷川」。

C:高安さんはかなり善戦しそう。案外、上位にきそうな気が私はするわ。

シーナ:高安さんは東京ジュニアのとき、よかったですからね。今回もかたくならずに演技できればかなり期待できそう。

B:寺澤さんは、もうちょっと上じゃないの？

A:そうなんですけど、4種目全部に安定した演技ができるかどうかがちっと不安なんですよね、寺澤さんは。それでこのへんに予想してみたんです。



古城梨早（飛行船新体操クラブ）

C: 私は高橋さんが大好き。できれば、もうちょっと上にきてほしいわ。

シーナ: 村井さんがけっこう上になっているのね。たしかに力はあるけど、ほんとにあれで、もう少し笑ってくれればねえ。このくらい上にきてもおかしくない選手なんだけど。

A: いやいや、それが関中のリボンの演技がおわったときに、にこお〜っと笑ったんですよ、村井さん！

B: まあ、その笑顔が演技中に出ればいいわよね。演技はしっかりやっているんだから。

A: そうですよ。手具操作もうまいですし。がんばってほしいです。

B: 大畑さんにも期待しているんだけど、団体と両方やっているし、なにしろ個人での試合経験が少ない子だから、決勝種目をどこまでまとめられるかがちょっと不安。ミスが出なければかなりいけると思うのだけど。

A: 私のがんばってほしいのは三石さんですね。関中のとき、とってもいい演技していたんですよ。東京ジュニア、神奈川中体連と続けて失敗していたロープのラストもびしっと決まって。とても小気味のいい演技でかなり好きですね。

シーナ: 三石さんは私もごひいきなので、ぜひがんばって全ジュニに駒を進めてほしいわ。

B: 真尾さんは、今年になってから大化けして、安定してきたわよね。東京ジュニアはミスの多い大会だったから、その中では群を抜いた安定感だったわ。今の東京のジュニア選手の中ではつま先がとってもきれいな選手だよね。

A: 美しい選手という点では栗栖さんも赤丸ですよ。表現力があってなかなかいいんです。全中にあと1人というところで進めなかったのが、全ジュニには絶対出てほしい！

C: 谷川さんは、関中では順位をのばせなかったけど、もともと力はある選手だから、復調すればもっと上にもいける可能性はあるよね。

シーナ: どこが悪いというのではなく、以前のように自信をもって動けてないのが、今の谷川さんの弱さのように感じられるの。もっと堂々と自信をもって踊ってほしいなあ。

C: リなちゃんスマイルを曇らせないでほしいですよ。

B: 今年は千葉勢が強いという下馬評だけど、この感じでいくと、全ジュニに進める14人の内訳は、千葉6人、東京6人、埼玉2人って感じかしら？ 数から見ればそんなに千葉と東京の差はないじゃない。

A: そうですね。でも、上のほうはみんな千葉ですよ。

シーナ: 千葉、東京、埼玉以外にも、逸材がいるかもしれないしね。ぐっと伸びてる選手、今年はまだ全ジュニには届かなそうでも、この先注目、という選手がいたら挙げてみて。

★今から見ておけば来年自慢できるかも？

将来性十分な選手達

C: なんと言っても茨城1位通過の生天目さん。この子はまだ小6なんですけど、関東ジュニア予選初出場



ウーマンズ新体操クラブ

でいきなり優勝してしまったスーパー6年生です。

B: イオンの浜崎さん。この子は団体のメンバーも兼ねているんだけど、かなりいいですよ。個人でもそこそこいけるんじゃないかしら。

A: 飛行船の佐藤るかちゃん。全中は逃してしまったけど、惜しかった。すごく演技が力強くなっているの、見逃せません。

B: 東京勢では、東京ジュニアでもうちょっと上にいけるかと思っていた河原井さん。ぜひがんばってほしいわ。
シーナ: 群馬、栃木、山梨は情報がないんだけど、群馬の塚田早紀ちゃんって関中には出ていたわよね。関ジュニにも出ているなら私は注目したいわ。この子もまだ中1だと思うけど、去年、なかなかいい演技をしていたの。身長も高くてのびやかな感じの選手だった。



イオン

A: 関中ではあまり目立たなかったけど、去年の関ジュニ

ニのときは、笑顔がとても印象的だった古屋さんにも、がんばってほしいですね。

★どうなる、上位6チーム？

千葉 vs 東京激化の団体

シーナ: さて、熱戦必至の団体はどうかしら？

B: 団体はね、ウーマンズの仕上がりはかなりよさそうよね。東京ジュニアでもかなりよかったし。

A: でも、安達、飛行船、イオンの千葉軍団もかなり力ありますよね。千葉ジュニアのときはまだミスが出ていたようですが、さすがに仕上がってきているんじゃないでしょうか。

C: 東京では4位のねもとも、全ジュニ出場を逃したことはないという意地を見せてくれるんじゃないかしら。普通に足し算すると今年は厳しいんだけど、それをひっくり返すのがねもとだから。

B: 東京ではねもとの上に町田もりの、町田 RG がいるけど、執念ではねもとも負けてない(笑)。でも、東京ジュニアでの町田もりの演技はよかったわ～。まとまりがよくて。千葉勢優位の予想だけど、千葉ジュニアのようにミスが出たらどうなるかわからないですね。



町田 RG

シーナ: 関中では、群馬、茨城の学校もがんばっていたわよね。あの子達がどこかのクラブの子だとしたら、クラブチームでも団体は出てないのかしら。出てきているなら要チェックなんだけど。

A: あー、もう朝が来ちゃいましたよ。

B: ほんとだ。早い人はもうでかける時間よ。

シーナ: やばいっ。私も、開場前から並ぶ予定なんです。この記事、だれか見てくれるかしら？

A:おわってから見ることになるんじゃないですか～。

シーナ:わーん。お願い、朝からチェックしてでかけてねー>みんな

●「RG LOVERS」2003/8/12

今ごろになってしまいました「関東ジュニア予想」を TOPICS に追加しています。読んでも時間ない方は、ぜひプリントアウトしておでかけください(笑)。

まあ、そこまでして見るほどのものではございませんが・・・。

私ももう出かける準備をしなければいけないので、本当はほかにも更新したい情報(大会記録)があるのですが、明日に回します。とり急ぎご報告まで。あ、でもこれだけは・・・。

浦谷郁子さん、インターハイ優勝おめでとう！

ほんとにすごいがんばりだと思います。小さいころからずっとトップ選手として走り続けてきて、よくここまで。ここ数年のマイペースな演技には、心をうたれるものがありました。継続すること、好きで続けることの力を思い知らされて気がします。

では、関東ジュニア、行ってきまーす！

●「RG LOVERS」2003/8/13

うわあああつ。

ちゃんと更新できなくてごめんなさい。

今日は、観戦のあと、子ども達のおさななじみとの飲み会でした。なので、寝る間もないまま、また観戦に出かけます。

連日の6時起き・・・。

それでもかなり人が並んでましたから。

そんなわけで関東ジュニアの報告は、2日目終了まで待ってください～！ いろいろと感じるころの多い大会であることは間違いないです。明日は団体もあるのでとっても楽しみ！

ところで関東ジュニアの会場にいながら、携帯にメールで速報が入ってきていたインターハイ。まさかの佐賀女の場外があり、名女の優勝！ にはびっくりしました。

やはり「あきらめない」でいれば、最後になにが起こるか分からないものですねえ。

明日の関東ジュニアもみんなの「あきらめない」演技、楽しみです。では行ってきます！

●「RG LOVERS」2003/8/14

楽しみにしていた関東ジュニアがおわりました。1年前の関東ジュニアは、なんだかとてもエキサイティングでおわってからも興奮さめやらぬ、でしたが、今年はなんだかちょっと違う感想をもっておわることになりました。

まあ、いろいろと考えるところの多いこの夏の試合でした。

私のような指導者でもないただのファンが見ても、考えてしまうことが多いという状態はおそらく指導者の方たちにとってはなおさら悩むところではないかと思います。新体操はとても難しい局面を迎えているのかもしれないですね～。

そんななか、飛行船の団体の演技には感動しましたよ。フープ2年目なのに、昨年とはまったく違う演技を作り上げてきたその底力には感服しました。飛行船だけじゃなく、団体はどこも(上位じゃないチームも)それぞれにいいところを発揮してくれた演技が多かったように感じました。

シンクロもそうだけど、やはり日本人には「団体」って合っているのかもしれないですねえ。見ているほうも楽しいし、素直に拍手をおくれるんですよ、団体は。

さて、次は、全中ですかね。さすがに小樽にはいけないので、報告など楽しみにしていまーす！

2003 全日本ジュニア直前予想

大混戦必至？ の全ジュニを斬る！

★もうだれも止められない？

日高舞、独走か？

シーナ: さあ、いよいよ、1年でいちばん熱い試合・全日本ジュニア目前に迫ってき

ました。さっそくけどみんなの予想を聞かせてもらえるかな。

A: 優勝は日高舞ちゃん。でも、あとはちょっと・・・混戦すぎて予想つかないなあ。

B: 私も、優勝は日高舞ちゃん。2位以下は、だれがきてもおかしくない感じがする。

C: 日高さんの優勝はかなり高い確率だと思うけど、上位にだれが入るかはその日の出来にもよるし、わからないなー。

シーナ: ちょ、ちょっと待ってよお。ぜんぜん予想が盛り上がらないんだけど、まず、日高さんの優勝という予想に異論を唱える勇氣ある人はいないの？

B: いないんじゃない。

A: 私にはそんな勇氣はないわ(笑)。

シーナ: あっ、そう。競馬でいえば単勝で勝っても110円くらいしかつかない超・本命馬みたいね。今年の日高さんは。なんだか予想としてはつまらないわね。かたすぎて。

B: そういうシーナさんは、だれが優勝だと予想しているの？

シーナ: えっ?・・・日高さんだけど・・・。



日高舞 (安達新体操クラブ)

C:なんだ、自分だって同じじゃないの！

シーナ:はははは。面目ない。やっぱ今年は仕方ないかな。関東ジュニアでも全中でも圧倒的な安定感だったものね、日高さんは。

B:少し体もしぼれてきてて、なかなか美しさもでてきましたよね。なんと言っても難度の正確さはすごいし。イオンカップ見ている「これなら日高さんのほうがうまい」と思うジュニア選手は多かったもの。

シーナ:たしかに。しかし、1年前には1年後の全ジュニ予想でここまで日高さんを圧倒的に支持することになるとは思わなかったけどね・・・。

C:ほんとに先のことはわからないってことよね。

シーナ:じゃあ、優勝予想は日高舞ちゃんってことで、ほか上位にきそうな選手を予想してみる？

D:うーん、それがけっこう難しいなあ。

A:普通だと最終グループがブロック大会上位の選手だから、上にきそうなんだけど、そうとも言えない感じだけに読みづらい。

C:私も今回はお手上げだわ～。

シーナ:上位予想が難しそうなので、じゃあ、Aグループから順に注目選手を見ていきましょうか。とくに上位にきそうとかいうのではなくても個人的なおすすめでなんでもいいわよ。

★新星ひしめくAグループ。

期待はやはり高安映理？

イオンカップを経験した佐藤るかにも注目！

A:Aグループでの注目やはり穴久保璃子ちゃん、高安映理ちゃんじゃない？

B:本来はそうなんだろうけど、とにかく今年の穴久保さんは故障をかかえたまま出場し続けているようだから、あまり期待するのも気の毒な感じさえるわ。

C:ほんとよね。きちんと力を出せば十分上位だって狙える選手でしょうけど、今は状態が悪すぎるよね。全ジュニがおわれれば少しは試合から離れられるだろうから、なんとかもちこたえて！ という感じかな、穴久保さんは。

A:高安さんのほうも、夏の後半はどうも万全ではなかったようで脚をかばっているような感じがあって演技の出来も今ひとつだったように思うけど。

シーナ:そうなのよね。東京ジュニアで見たときは、ほんとに「これはかなりいくな～」と思わせるものがあつたのよ。今までずっと課題かな？ と思っていたつま先や甲の伸びがすごくよくなっていてほんとに「美しい～」と思わせる演技をしていたのよ、高安さん。

A:関東ジュニアやクラブ選手権ではそこまでの演技はできてなかったよね。

シーナ:だから、どうも脚を痛めていたみたいなのよね。ただ、あれからずい分、たっているからもう完治しているらしい。練習もかなりがんばっているらしいので、今度は期待していいんじゃないかな。

B: 6年生であるスタイル、能力といったらやはり期待はしちゃいますよね。

シーナ: スタイルや身体能力に恵まれているのもたしかだけど、聞いた話ではかなりの努力家らしいのよね、高安さんは。実は甲が硬いんじゃないかって私はずっと思っていたのだけど、今年の夏にあれだけ甲が伸びるようになっていたのを見たときに、努力家だという噂は本当なんだ、と思ったもの。そういう努力できる選手だっところを評価したいし、期待しちゃうな。

B: ほかにAグループで気になる選手はいる？ 私は高橋杏子ちゃん。この子、たしかクラブチャイルドに出ていたよね。なかなかキレのいい動きしていたのが印象的だったの。札幌MEGって、この前のライラックオープンするときも全体のレベルがすごく高くて今、注目株なのよ。

D: 坂上裕美子ちゃんも、今年急に出てきた選手だよ。前にシーナさんの掲示板に書き込みあったでしょ。「今まではチャイルドくらいしか名前が出ていなかった選手で急に伸びた」って。そういう選手が活躍するのも楽しみだな。

A: 井上彩ちゃんは、アンジュだから、それなりの力はあるそうだよ。クラブ選手権でもいい演技していたもの。

B: 河野未来ちゃんのヴェニエラもかささぎ杯では大活躍だったみたいじゃない。ちょっと注目よね。

シーナ: ヴェニエラの子違ってみんなちょっと小柄なんだけど、きびきびとよく動くわよね。団体も強いみたいだから楽しみなんだけど、個人もがんばってほしいわね。

C: 玉上由貴ちゃんは大分だけど、珍しく松永RGじゃないんですよ。かささぎでかなりがんばっていたので、注目してほしい選手だわ。

B: 秋山幸ちゃんは小さいころからよく見ている選手だけど、とうとう全ジュニに出るようなところまでできたのねえ。小さくて柔軟性のある子だったけど。感無量だわ。

シーナ: 山下咲ちゃんの鳥取大学附属中学って、毎年何人か全ジュニに出てくるわよね。団体も出ているし。去年出ていた子も線はきれいな子だったのよね。山下さんもどんな演技をするのか楽しみだわ。大越麻美ちゃんは、福島選手なんだね。福島からの全ジュニ出場は久しぶりじゃないかな。どんな選手か楽しみ。

A: あと、忘れちゃいけない佐藤るかちゃん！ イオンカップでの演技もよかったわ～。つま先がほんとに緩まないし、きれいに伸びている選手なんですよ。つま先が足の裏にくっつくんじゃないかと思うくらい。

D: イオンカップを経験してまたひと皮むけていたらこわい存在よね、佐藤さんは。

シーナ: 渡辺さえかちゃんは、2年前まで東京にいた子だよ。転勤で長野に移ったみたいだけど。前からとてもきれいな動きをする子だったから、「おっ、ついに出てきたわね」って感じ。ちょっと注目したいわ。

★個性派・柿崎麻莉子は要チェック！

谷川莉奈の健闘に期待！

シーナ:さて、Bグループはいかが。

B:やっぱり柿崎麻莉子ちゃんでしょう。あの印象の強さはちょっと目が離せないわ。

A:去年初めてみたときよりは少しアクが抜けたような気がしますけどね、柿崎さん。

C:でも、かささぎ杯で見た演技はとても印象的だったし、すばらしかったわ。私はとくにボールが好きなんだけど。

B:ボールはクラブ選手権でもやっていましたよね。たしかに美しい演技だったわ。

今回は4種目見られるから楽しみねえ。

D:坂本美紀ちゃんも、とても明るい演技で、上手さのある選手ですよ。ぜひ注目してほしいです。

A:イオンカップ出場組の大畑愛ちゃんはどうかな？

B:柔軟性はすばらしい選手なんだけど、安定度が今一歩かなあ。それに今回は団体もあるから、体力的にも厳しいかもしれないな、大畑さんは。

シーナ:鶴澤美咲ちゃんって、チャイルドに出ていた子よね。うちのホームページに「とても大人っぽい演技」って書いてあるわ。中1なのにもう全ジュニまで進んできたとはすごいわね。

D:田中紫央里ちゃんは、NPOぎふですからパワフルで確実な演技をしてくるでしょうね。三澤樹知ちゃんも山形RGだから、つま先まで神経のいき届いたきれいな演技なのかな。やはりクラブによる特色ってありますよね。

A:共立恵里香ちゃんは、クラブ選手権で見たけど、なかなかいい脚をした選手だったわ。

B:小嶋明日香ちゃんも、クラブ選手権で見たわよ。大人っぽくて表現力のあるタイプの選手ね。小嶋さんって去年までは県内でもそれほど目立った選手じゃなかったらしいよ。それが1年でこんな風に花開くなんて、努力の賜物よね。目立たなくてもくさらずあきらめずがんばってきた選手だと思うと応援にも力入っちゃうわね。

シーナ:寺岡紀恵ちゃんの千月新体操クラブは、チャイルドにも倉田さんというすごくきれいな動きをする子が出ていたよね。最近、千月はとてもよくなっているという評判だから、注目してみたいわ。東志保ちゃんも、北海道注目のMEGなのね。こちらも注目ね。

A:そうそう。栗栖千翔ちゃんも忘れちゃいけないよー！ほんとに美しい選手なんですからあ。P LANETの選手ですから、見た目は細くてもすごく脚が強くてピボットはすごいですよ。

C:谷川莉奈ちゃんも夏の試合では今ひとつだったと聞いていたけど、かささぎ杯で見たら、今まで通りはつらつとした演技と笑顔で「さすがあ」と思ったけど。こんなに試技順が早いのが不思議な感じだよ。

シーナ:谷川さんは、今年は本当に苦しんでいるように見えていたわ。でも、関東ジュニアではかなりいい演技を見せてくれていたし、かささぎでもよかったのなら、今回は期待できるかな。シーズンはじめのころは自信をなくしているような様子が見えたけど、自信を取り戻して、「これが谷川莉奈だっ」って演技を見せてほしいわ。

D:そうですね。やはり谷川さんの笑顔のない大会はつまらないですもん。

B:谷川さんは体型が変わったということで、ずい分、いろいろなことを言われていたようだけど、体型なんて年頃になればある程度変わるの当たり前なもの。体型がどうであれしっかりと演技でき

ればいいんだってとこ見せてほしいわ。

A: そうですね。とくにジュニアは「細く、細く」って言いすぎだから、少々太ったっていいものはいい、って思える演技を見せてほしいですね、谷川さんには。ただ、最近の演技ではちょっと締めが甘いと感じたことがあったからそこだけは気をつけてほしいな。

シーナ: ほんとにそうだよね。体型がどうであれ輝く演技のできる選手だと思うから、谷川さんのことは応援しつつ見たいわね。

★ファン急増中の林田美紅里。美しさ抜群の高橋麻理子。

成長著しい真尾裕美。ピボットの村井桃子。

お楽しみはこれからだ！

シーナ: いよいよ、Cグループ。だんだん盛り上がってきたわね。

D: 言わせて、言わせて。なんと言っても林田美紅里ちゃんよお〜〜〜！ もうファンクラブ作ろうかってくらい好き。近畿の星なんですよお、美紅里ちゃんは。

B: はははは。熱いわねえ〜。美紅里ファンクラブ。

D: 林田さんは、能力も高いけど、なんといってもかわいい。「新体操楽しい！」って気持ちが入り込んでくるところがすごくいいんですよ。

A: チャイルドでの演技はまだ印象が強いですね。クラブ選手権でも同じ曲、レオタードだったし。ターンがよく回れる選手ですね。

C: なんでも「キューティーハニー」の曲を使っているんだって。

A: そうそう。ローブかな？ それも楽しみですね。

B: 北澤萌ちゃんはクラブ選手権では決勝まで進んでいましたよね。なかなか安定感のある演技をする選手だから、今回もけっこういくかしらね。

C: 松井未央子ちゃんも、かささぎ杯ではいい演技をしていましたよ。あのクラブの特徴なんだろうが、とても美しい昔ながらの新体操のよさを感じさせてくれる選手だと思うわ。

B: いいわねえ、そういう演技も見たいわよお。このところ難度とAV加点に追われた演技が多いから、私はちょっと辟易しているところがあるのよね。

D: たしかにそうですね。美しい新体操ってあまり見られないような・・・。

A: その点、この選手は美しいですよー。イオンカップでも堂々たる演技をしていた高橋麻理子ちゃん。私はすごく推したい選手です。

B: 高橋さんはいいわね〜。イオンカップでもほんとに中3とは思えない落ち着きで、びっくりしたものの。

シーナ: 高橋さんをはじめ飛行船の子達は、とにかく練習熱心という話も聞こえてきてますよね。そういうの聞くとほんとにがんばってほしいですね。私も、高橋さんは大好きな選手ですよー！

A: 村井桃子ちゃんも忘れないでくださいね。関東ジュニアくらいからずい分、表情も柔らかくなってきて魅力アップしてますから。B: 技術はたしかな選手だから、がんばってほしいわよね。私も村井さんの演技は好きなので、応援したいわ。

シーナ: うちの娘が、村井さんや栗栖さんがやっているバタフライジャンプがすごく好きなのよ。フィギュアではよくやっているけど、新体操ではあまりやらないでしょ。今回もばっちり決まるといいんだけど。

D: 高安さんと2人だけの小学生・舩中はるなちゃんはどうでしょうね。能力が高いことは間違いのない選手だけど。

B: 舩中さんもついこの前、チャイルドで見たのにね。っていうか、この選手は今度のチャイルドにも出るかもしれないのよ…。小学生で全ジュニとはすごいわ。

C: ただ、ちょっと疲れが出ているみたいよね。とても遠征の多いクラブだから、小学生の体力ではきついのかも。

B: 二本柳公美ちゃんは、スノーカップで何回も見たことがあるけど、安定した力のある選手だったという記憶があるわ。北海道はこのところ勢いがあるから侮れないわよね。

シーナ: 侮れないといえば、江原かおりちゃん。この選手は4月の代表選考会にも出ていたけど、クラブさばきのうまさに目が留まったのよね。ほんとにクラブの動きが速いのよ～。

D: 脚もすごく強い選手ですよ。中国地方はなかなか上位にいける選手が出てこないけど、がんばってほしいですよ。

C: 中飯彩ちゃん、小野早絢ちゃんは、かささぎ杯で上位に入っている選手です。どちらもきびきびとした動きが気持ちいいですよ。

シーナ: 中里麻利恵ちゃんもBグループなのね。クラブ選手権ではお疲れ気味だったみたいだけど、全ジュニではいつもの正確な演技を見せてほしいわ。団体も出るみたいだから大変でしょうけど。

B: うちの娘のイチオシの真尾裕美ちゃんにも注目してくださいね。東京の選手では今年いちばん伸びた選手じゃないですかね。



山形 RG

A: 真尾さんは化けましたよねえ。調べてみたら去年の秋の新人戦でも種目別で6位なんです。それが1年後には全ジュニでしょう。すごい成長ぶり。

C: へえ、真尾さんって、私は知らないですよ。

B: 関東以外での知名度はないかもしれませんがねえ。ほんとに今年になって急成長した選手なんですよ。

D: 私はビデオで見たことがありますけど、とっても表情に華がある選手ですよ。

印象に残ってるわ。

B: ほんとにいい演技するんですよ。難度も無理してつめこんでいないので安定しているし、余裕があるんです。ミスがなければきっちり点数もとれると思うわよ。

シーナ:真尾さんのような遅咲きの選手の活躍もうれしいよね。私も今年の実尾さんにはただただ驚かされているのよ。全ジュニでも思い切り自分らしい演技を見せてほしいですね。

★日高舞、山本千尋、臼間野香里の3つ巴？

古城梨早、浅野みわも侮れず。

安部ともな、寺澤由真はダークホース的存在か。

シーナ:さて、いよいよ最終Dグループだけだ。

C:浅野みわちゃんが安定感では抜けてるんじゃないかな。ミスも少ないし、難度がきちんととれる選手だもの。

A:あー、浅野さんは点数出そうですね。

D:現在はすごくいい状態で練習できているという噂も聞いているので浅野さんは赤丸ですね。

シーナ:私は西部智美ちゃんも好きなのよね。今のルールになってから最初の全ジュニで「うまい！」と思った選手だもの。ほんとに脚がしっかりしているのよね。

B:西部さんはいいと思うんだけど、なんだかコーチの引率ができなくなったとか某ホームページに書いてあったわよね。中3とはいえ、コーチ不在ではちょっと不安でしょうね。演技に影響がないといいけど。

C:岩倉歩ちゃんも期待できそうですが、ライラックオープンでは不調だったみたいですね。

シーナ:ああ、そうらしいわね。ライラックでは非常に出来が悪かったみたいで成績もふるわなかったのよね。でも、力のある選手だからそれを発奮材料にして調子を上げてきているかもね。

B:それを言うなら庄司七瀬ちゃんもでしょう。クラブ選手権は、全中直後だったとはいえ、かなり不本意な演技だったでしょうからきっと猛練習してきたんじゃない。

A:中里さんも同じ条件ですけど、団体もあるのが厳しいですよ。山形は団体もそこそこいけそうだから、個人に専念ってわけにはいかないでしょうからね。

シーナ:でも、それを言ったら今回は団体兼任の選手が多いわよね。なんとあの臼間野香里ちゃんも熊本RG団体に入ってるんでしょう？

C:入ってますよ。かささぎでも出ていましたし、なんだか臼間野さん、今は団体をやっているときのほうがいきいきしているみたいです(苦笑)。

A:えー、そうなんですか。私的には臼間野さんの個人での巻き返しに期待しているんですけど。



熊本 RG

C:もちろん、個人もがんばるでしょうけど、団体もすごくがんばっているみたいですよ、臼間野さん。ジュニア最後の年だからそれもまあいいかな、って思いますけどね。

B:個人とは違うやりがいがあるからね、団体は。臼間野さんもいい経験ができていますのね。

シーナ:東京期待の寺澤由真ちゃんも団体兼任。

A:あー、でも寺澤さんは点数出そうですねえ。

B:安定感が今いちなのよね、寺澤さんは。応援しながら見ているとほんとに疲れるもの(笑)。スリルのある演技というか。

D:それだけ難しい構成の演技に挑戦しているってことなんですよ。

B:まあ、そうですね。細いのはいいんだけど、ちょっと細すぎるところも安定感という面では災いしている感じもあるけど。力のある選手なのはたしかだから、ミスが出なければけっこう上位に上がってくるかもしれないわね。

C:古城梨早さんも団体兼任ですか？

A:もちろん、そうですね。しかし、古城さんもイオンカップではよくがんばってましたよね。飛行船の選手達は、去年の全ジュニでは全員が個人と団体兼任だったこともあってか最後に大くずれしてしまっただけど、今年は同じ失敗はしないんじゃないかな。



飛行船新体操クラブ

B:そうよね。去年のあの失敗があったからこそ、今年のイオンカップ出場もあったかもしれないし、イオンカップでいい演技ができるだけの精神力がついたとは言えるかもしれないわ。

D:くう～、今年も飛行船の選手達は楽しみですねえ。

A:古城さんは夏の関東ジュニアのときは私の期待に応じて3位でできてくれましたからね、今回も肩入れさせてもらうわ～

C:中村芳ちゃん、安部ともなちゃんはかささぎ杯での上位なんですけど、中村さんはまあ妥当として、安部さんがかささぎでここまで上位にくるといのはちょっと驚きだったんですよ。

B:そうよね。たしか安部さんって全中には出てないでしょう？

C:そうなんです。九州中体連での成績がよくなかったのよ。

A:なにか大きなミスでもあったんでしょうかね。

C:いや、それがそうでもないんですよ。両方見た人の話では、九州中体連もかささぎもそれほど差はない出来だつて。でも、審判の基準が違うんでしょうかね。こんなに点数の出方にムラのある選手も珍しいんじゃないかな。だから今回の全ジュニも期待半分、不安半分なんです。

シーナ:そうなんだあ。でも、安部さんは東京での試合では比較的点数出ているよね。だから、今回もいいほうの目が出るんじゃないかな。



松永 RG

D:なんといってもあの座のターンのインパクトは絶大ですよのね。

B: うーん、細かいところを見ればたしかに減点したくなるところも多いんだけど、高いレベルのことができているのは認めざるを得ないわ。今回はどんな演技を見せてくれるのか楽しみね。

シーナ: さて、残る2人がやはりトップ争いを見ていいのかな。千葉の2人。山本千尋ちゃんと日高舞ちゃん。

A: やはりそうでしょうねえ。

B: 山本さんも少しふっくらとしましたが、それがいいほうに転んでいますよね。安定感が出てきたし、女性らしさ、大人っぽさが出てきていい感じになったと思うわ。

A: そうですよ。ほんとに「細ければいいってものじゃない」と山本さんを見ていても思いますよ。

B: 以前は4種目安定してやれるかな、と不安だったけど、今の山本さんならいけるんじゃないかな。期待したいです。

D: 日高さんはやはりだんとつ、ですか？

シーナ: そうねえ。日高さんも団体兼任なんだけど、「団体もあるけど大丈夫？」って感じがしないのよね、日高さんに関しては(笑)。当然、大丈夫って感じで。

A: シーナさん、最近、日高株上がってますよねえ。

シーナ: そうねえ。関東ジュニアもミスが多い試合だったから、その中で日高さんのミスのない確実な演技ってやはり見ていて気持ちよかったのよね。そのころからどうも日高株が上昇気味なの(笑)。

B: 正直言ってあまりおもしろみのある演技ではないと思っていたんだけど、日高さんの演技って。

シーナ: そうなの。実は私もそう思っていたんだけど、おもしろみ以前の問題で「あ～あ」と思うような演技が多いと、日高さんの堅実な演技はやはり価値があるわ、と感じるんですよ。

B: あ、それはわかる。日高さんが出てくると「安心」って感じはあるもの。



安達新体操クラブ

★悩みに悩んだ最終結論。

大はずれ御免の強引予想！

シーナ: さて、じゃあ意見の出揃ったところで、Aさん、最終予想を聞かせてよ。

A: えっ、なんで私が？

シーナ: だって、関東ジュニア予想で的中したじゃない。今回もぜひ！

A: ひえ～、それはプレッシャーですよ。関東よりもずっと予想難しいし～。

シーナ: まあまあ。はずれたはずれたで「Aさんでも読めなかった波乱の展開」ってことでいいじゃない。

B: そうよ、ぜひ！

D: 賭けるわけじゃないんだから、そんなにプレッシャー感じないで！

A: うーん、うーん。難しいなあ～。えーっと、日高さんの1位はおそらくかた
いとして、あとは、うーん。日高、山本、臼間野、かなあ。

シーナ: ふんふん。そのあとは？

A: 古城、浅野、高橋、真尾、安部、寺澤、庄司…？ うー
ーん、わからない～。

B: わっ、真尾さんがずい分、上でうれしいっ。

A: いやー、わからないけど。なんかちょっと希望入ってるか
な。

C: 安部さんも上だ。悪いほうが出たら知らないよお～(笑)。

A: だからわからないって言ってるのにい～(泣)。で、続きは
西部、岩倉、村井…ああ～、言ってるでどんどん不安になって
きた。大はずししてるかも～。

シーナ: いいのよお、はずれても。それだけ予想外の選手が
がんばってくれたら大会としては盛り上がるし、見ているほう
も楽しいものね。

D: そうよね。彗星のごとくって選手も出てきてほしいわ。美紅里ちゃんとか。

C: また美紅里ちゃんだよ(笑)。ほんとに好きだねえ。

シーナ: 白熱しすぎて団体に触れる時間がなくなってしまったので、団体はまた明日ってことで。で
は、週末に向けて体調を整えて出陣しましょうね！



庄司七瀬 (山形 RG)

2003年 全日本ジュニア新体操選手権 (10月18～19日/代々木第一体育館)

●1日目

全日本ジュニアは、A～Dの4班に分かれていて、地方大会を下位で通過した選手から試技順が早くなっています。なので、通常は後になるほどレベルが上がっていき、点数も上がるのですが今回は、AB班はわりあいいい演技が多かったように思いました。初日の2種目で、とくに印象に残ったのは、大越麻美(福島新体操クラブ)、玉上由貴(土屋 RG)、高橋杏子(札幌 MEG)、三澤樹知(山形 RG)、鶴澤美咲(となみ RG)など。それぞれに自分のもっている能力を精一杯出し切っている感じの演技が心に残りました。それから驚いたのが穴久保璃子(イオン)の健闘です。1週間前のイオンカップではつらそうだったのに、今日は別人のようにいきいきとした演技を見せてくれました。

た。B班ではやはり柿崎麻莉子(エンジェル新体操クラブ)の演技も印象的でした。前半2班はなかなかしまった試合でしたが、C班になってからややミスが目立ち始めましたが、舛中はるな(NPOぎふ)の達者さは目を引きました。D班も思いのほか点数が伸びず、予想通りの大混戦となりましたが、D班では西部智美(ジャスコ岐阜)が、すばらしい演技を見せていました。もちろん、大本命・日高舞(安達新体操クラブ)もよかったです。今日は小さなミスが少し出てしまったようです。それでも、18点台が出たのは日高さんだけ。あとは、16点台に混みあっているという状態でした。AB班でも16点台を出している選手もいれば、B班でも15点台もありという感じで、下克上な全日本ジュニアになりそうです。明日の残り2種目と団体がますます楽しみです。

個人に関しては、今日もそうでしたが、「ミスしなかった人の勝ち」になりそうな予感がします。団体はフープ団体の2年目なので、おそらく高いレベルでの争いになるのではないのでしょうか。楽しみです！

●2日目

さて、全日本ジュニアがおわりました。

予想通り、熱い試合で2日間、現世のことはすっかり忘れて楽しみつきたという感じです。

今回は予想以上に健闘の光った選手が多くて、とても実りのある大会でした。個人では私の心にいちばん残ったのは西部智美さん(ジャスコ岐阜)の健闘です。小さな体で、本当に4種目ががんばりとおしました。ミスの多い大会でしたが、4種目通して安定した力と精神力を見せてくれて感動しました。昨年は残念ながら出場を逃すなど、ずっと恵まれてきた道をきた選手ではないように感じていたので最後の年のこの健闘は本当にうれしかったです。

個人では、背が小さかったり、決して細いとはいえない選手でも、クラブのネームバリューはない選手でも、いい演技にはきちんと点数が出ていて、そういう意味でも納得感のあるいい試合だと思っていました。

が、残念なことに団体のほうは、いくつか納得のいかない採点もありました。まあ、試技順の運なども作用するかな、とは思いますが。

新体操は採点競技ですから、試合での点数ではやはりこういう「なんで？」ということがあるのだなあ、とつくづく思い知らされた今日の試合でした。だからこそ、新体操にかかわる人達は、指導者も選手も親も、点数や順位にこだわりすぎず、あくまで目標として掲げるのはいいいとして、「点数で負けたから負け」「1位じゃなかったからダメだった」ではなく、見ている人達(審判ではなく)にどう感じてもらえたか、自分達にとって納得のいく演技だったかななどを大切にしていくなのだらうな、とそんなことも感じました。

試合だけではなく、こういう世界では、選考会だのオーディションだの、進級テストだの「なんで？」と結果に対して言いたくなることは山ほどあると思います。そのときに、「こんな結果じゃやっている



優勝：日高舞(安達新体操クラブ)

意味がない」「結果が悪かったから努力が無駄になった」なんて思わないでやっていくしかないんだな、とそう思いました。

理不尽なことが続くと、母親はとくに子どもが不憫になったりして「こんな思いをするなら新体操なんて」と思ってしまいがちですが、そうじゃないんだよな、って。本当に新体操が好きなら、たとえ理不尽な結果になってもやはり子どもは新体操ができることを幸せと感じているのだろうし、親だって、新体操が好きになればなるほど「新体操をやっているわが子を見られる幸せ」があると思います。それを思えば、理不尽な結果のひとつやふたつなんてことない！ と思えるようになるしかないんだな、とそんな風に思います。

全日本ジュニア、見たくても来れない人、たくさんいたと思うので、あまり言うとも申し訳ないのですが、飛行船新体操クラブの団体の演技は、私にとっては茨城インターハイでの佐賀女の団体の演技以来の感動でした。ああいう演技を見ると、毎週のように観戦に出かけて、いい加減、夫からも三行半？ という薄氷を踏む思いをしながらも会場に足を運んでしまうのは、こういう演技を見られるかもしれないという期待があるからなんだよな、と実感しました。「今、この会場にいられて、この演技を見ることができた！」ということに幸せを感じることもできた2分半でした。こんな思いをしてしまうと、また観戦に出かけずにはいられません。夫から愛想つかされる日も遠くない？(すでにつかされているか)



日高舞：2003 全日本ジュニア優勝

(ロープ 18.800/ボール 18.600/クラブ 18.450/リボン 17.050)

2003 年 全日本選手権

(11月28～30日／幸手市民文化体育館)

●1日目

行ってきましたよー、やっぱり幸手は遠かったし、なにしろ座席のない体育館なので、大変でしたが、でも、2年前に全日本ジュニアで行ったときには駅と体育館のアクセスが悪かったのですが、今回はシャトルバスなど出ていてずいぶんよかったです。座席も少ないのですが、今日は平日で学生さんが見にこれないせいかとでもすいていたので、なんとか座って観戦することができたし……。オールジャパンは、この1年間のさまざまな試合での上位者が出場してくる大会なので、下は中2の庄司七瀬ちゃんから上は社会人までという幅広い大会です。当然、ジュニア選手たちは「胸を借りる」という感じの大会、だったはずですが、今回はちょっと様子が違っていました。つい先日の全日本ジュニアで上位に入った選手たち、軒並み大活躍です。なんと言っても日高舞ちゃんの5位にはただただ驚くばかり。でも、たしかに「5位」にふさわしい演技をしているからまたびっくり!!! ああの安定感、確実さはシニアにまじってもまったく遜色ありませんでした。むしろ日高さんにはシニ

アのほうが似合っている感じすらしました。あと驚いたのが中2の庄司さんが14位!!! たしかにどの演技もミスなく確実にこなしていたし、難度も安心して見ていられたのですが…。シニアの大会に出ていること自体、冗談みたいにまだまだかわいらしくあどけないのに、おそろべし! 18~20位も古城、西部、村井とジュニア勢ががんばりました。みんな小柄で、見た目はまだ「ジュニアそのもの」なのですが、やはり今のジュニアの身体能力は高い!! サブフロアで練習しているのを見ても「うわー、すごくきれいな形でやってるなあ」と目につくのはたいていジュニアの子なんです。まあ、ただ、手具操作や表現力などでは、やはりシニア選手には一日の長があり、日女の選手の演技などは点数以上に「うっとり」させるものがあったし、さすが! なんです。ただ、現在のルールへの変更を小学生のうちに体験している今のジュニア選手と、ジュニアの最後のほう



日高舞 (安達新体操クラブ)



庄司七瀬 (山形 RG)

だけ現在のルールだった、またはほとんど今のルールではやっていない(高体連ルールだった)というような選手とでは、「現行ルールへの対応力の差」はあるのかもしれないな、と感じてしまいました。おそらく申請書の書き方のテクニックなどもジュニア選手をかかえている指導者のほうがたけているのかもしれない。

まあ、そういう意味で、いざ最終速報を見たときと、演技を見たときに受けた印象とはずいぶん差があつてエキサイティングな試合でした。私は私用で明日は見に行けないので会場特派員の速報待ちですが、できるかぎり速報は掲示板に書き込みますね。湿気の多そうな中での明日のリボンとクラブ。手具操作ではさすがに経験値の高さを見せるシニア選手たちに、ジュニアはどこまで食い下がるでしょうか。ちょっと楽しみです。

●3日目

3日間にわたる熱戦がおわりました。

私は、1日目と3日目を見てきましたが、1日目はジュニア勢の健闘に驚きつつ感動し、3日目は現在の日本のトップ選手が、数年前からトップでい続けながらも、ずっと進歩し続けているという姿に感動しました。

とくに横地愛さんには、本当に感動の嵐。ビデオを撮る手にも思わず力が入り、途中であまりに熱く声援を送っていたもので、隣にいた娘から「あんたは身内か?」と突っ込まれる始末。リボンの演技などは途中で「すてき～」と叫び、おわったときは涙ぐんでましたからね。正直言って、2年前くらいまで、そんなに好きな選手じゃありませんでした(ごめんなさい!)。でも、今は違う。やはり横地さんの演技が始まる時はわくわく、どきどきするし、見ていてもひきこまれる…。上手なことはも

ちろんだけど、なんていうのかなあ、「新体操を見ている」ということを忘れさせる世界なんですよ
ね、横地さんの演技って。だから少々のミスも気にならない(笑)。ちょっと前まではあの表現力が
「ちょっと無理してる? なんかこわいぞ」と見えていた時期もありました。でも、今は本当にそれが、
横地さんの世界になってきたと思います。最近は、「あと何回、横地さんの演技を見られるだろう」
と考えると毎회가とても貴重のような気がしてしまい、ほんとに見逃せません。いつまでも見てい
たい選手です。そして、驚くのはあの年齢(っても若いんですが)になっても、まだまだ進歩してい
るんですよ。上手になっている。もう現状維持で十分、となっても無理のない年齢とキャリアなのに、
なんと食欲さ、勤勉さ、向上心! すばらしい選手だと思います。今回もいちばんの感動を与
えてくれました。また、同じイオンの中村八千代さんも、今もなお進化しつづけている選手だと感じ
ました。柔軟性をはじめとする能力の高さは定評がありますが、表現に関してはやや淡々としたお
となしい選手という印象だった中村さんが、今年になってから、ずい分、いろいろな表情を演技中
に見えるようになってきたと思います。顔の表情も、きりっとしたり、にっこりしたり、豊かになってき
たし、動きにもすごくめりはりがついてきて、演技にアクセントがついてきた結果、横地さん同様、
ほんとにわくわく、どきどきして見られる演技になってきたように感じています。この1年での変貌を
見ると、来年だってまだまだ変わっていくのでは? まだひと皮もふた皮もむけるのでは? と思え
る選手です。技術的にも以前は「やっているだけですごい!」だった超柔軟技にも安定感が増して、
きっちり見せられるすごみが加わってきました。来年はどんなふうに進化してくれるのが楽しみで
仕方ありません。

まだまだ伸びざかりのジュニア選手ならともかくシニアのそれもトップクラスの選手となると、現状
維持するだけでも大変なことだと思います。それだけでも賞賛には値するのです。なのに、そこに
いながらまだまだ上っていついていと見る者に感じさせる選手たちがいるということに感動したオー
ルジャパンでした。

また、佐賀女のポール&フープの団体、種目別の日はほぼノーミスでした。最後のあの「輪ぐり
&4こ投げ」も生で見た迫力はすごかった。感動でした。あれを見られただけでも行った甲斐があり
ました~。

日高舞：2003 全日本選手権5位

(フープ 21,550/ポール 21,350/クラブ 21,275/リボン 19,550)

MAI HIDAKA 2002~2003

<http://p.booklog.jp/book/52721>

著者 : rgkeikos

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/rgkeikos/profile>

撮影 : 小林隆子 (AJPS/AIPS所属)

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/52721>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/52721>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ